WASON
HQ
1104
J74

Jan 5
1889
No. 143

女學雜誌

版權所有
各土曜日出版

一冊六錢
當府内無郵税

明治廿二年（第百四拾參號）一月五日發

社說
新年を賀す○女子及び女子教育（緒言女學雜誌）

論說
人間の功業（中島俊子）○印度女子教育の景況（ラマバイ夫人）

批評
婦人及び宗政○もしや双紙に就て（其一）（不知菴主人）

叢話
舊年を送り、新年を迎ふ○女博士ラマバイ及び其事業を評す○歌の記三つ○演藝矯風會には失望せり○萬國赤十字社大會の感（五）○百人一首一口話○島田三郎君通信

小說
夢ならぬ夢

佳傳
ブンヂツタ、ラマバイの傳

寄書

新報
宮庭錄事○明治廿二年の女海○第三回女學演說會○ラマバイ義捐金○ラマバイ既に日本を發す○杉戸の西王母○東京府高等女學校○篤志看護婦人會○淑女館○文部省直轄學校學生々徒○女子獎勵會○看護婦學校設置の計畫○附屬幼稚園○鳥取婦人會附屬の女學校○伏見婦人慈善會○長野尋常師範學校女子部○女子闘習會○娼妓公許論○東京府下女學校表

外報
ゼツシイ、エツケルマン孃○家政學校○ウエルスレー女大學

小供談
強くなりたがる猫の話

附錄
文學一斑（第十五回）○育兒心得（第十六回）○女子生理（第十六回）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

WASON HQ 1104 J74+
Jan 5 1889 No. 143

女學雜誌

一冊六錢　當府內無郵稅

版權所有

各土曜日出版

明治廿二年（第百四拾參號）一月五日發

社說
新年を賀す○女子及び女子教育（緒言女學雜誌）

論說
人間の功業（中島俊子）○印度女子教育の景况（ラマバイ夫人）

批評
婦人及び宗政○もしや双紙に就て（其一）（不知菴主人）

叢話
舊年を送り、新年を迎ふ○女博士ラマバイ及び其事業を評す○歌の記三つ○演藝矯風會には失望せり○萬國赤十字社大會の感（五）○百人一首一口話○島田三郞君通信

小說
夢ならぬ夢

佳傳
プンヂツタ、ラマバイの傳

寄書

新報
宮庭錄事○明治廿二年の女海○第三回女學演說會○ラマバイ義捐金○ラマバイ旣に日本を發す○杉戸の西王母○東京府高等女學校○篤志看護婦人會○淑女館○文部省直轄學校學生々徒○女子奬勵會○看護婦學校設置の計畫○附屬幼稚園○鳥取婦人會附屬の女學校○伏見婦人慈善會○長野尋常師範學校女子部○女子講習會○娼妓公許論○東京府下女學校表

外報
ゼツシイ、エツケルマン孃○家政學校○ウエルスレー女大學

小供談
强くなりたがる猫の話

附錄
文學一斑（第十五回）○育兒心得（第十六回）○女子生理（第十六回）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 143. JANUARY 5TH, 1889.

EDITORIAL:— Welcoming the New Year. Women and Education. No. 1. The Woman's Magazine.

LEADING ARTICLES:— Man's Work. by Mrs. T. Nakajima. Woman's Education in India by P.S. Ramabai.

CRITICAL NOTES:— " Woman and Her House-hold." "About Moshiya zoshi."

MISCELLANIES:— "The Old Year Out and the New Year In." "Ramabai and her Work." "Poems Overheard." "At the Great conference of the Red Cross—Society" "A Letter from Mr. Shimada."

NOVELS:— "Fantacy."

BIOGRAPHIES:— Pundita Ramabai.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

恭賀
新年

女學雜誌社長
巖本善治

●京濱間女學校職員表　（廿一年十一月調）（其四）

○フェリス英和女學校　（横濱山手百七十八番）

設立　明治八年六月　　生徒現數　一二〇人

校務委員　イー、エス、ブース○イー、アール、ミロル

試驗委員　セーュス、エッチ、バラ○井深梶之助○稻垣信○石本三十郎○岩本善治○小崎弘道○熊野雄七○松山高吉○イー、アール、ミロル○山本秀煌○ジー、エフ、フルベッキ

敎員　ユーセン、エス、ブース○ミス、エュ、ライラ、ウ井ン○ミス、アンナ、エッチ、バラ○ミス、アンナ、デ、エフ、タュソン○ミッセス、エミリー、エス、ブース○高根虎松○熊野與○小原秀彦○島田加志子○坂従安子○稻垣豐子○林蓊○平野濱子○宵山都子○佐々木鶴子○片山民子○片山義江子○六角謙吉

○新榮女學校　（築地新榮町）

設立　明治七年　　生徒　一三五人

校長　ミス、リード

敎員　ミス、ビケロー○ミス、ヘイス○ミス、マーレー○石原保太郎○近藤忠恕○三田村敏行○荒井桐月○井石千代子○鳥塢鈴子○工藤さ野子○服部千代子○牧野定子○伊勢琪子

○東洋英和女學校　（麻布鳥居坂）

設立　明治十七年十月二十日　　生徒　二五〇人

校長　イー、エス、ラーヂ　　役員　エス、エー、ウインテミウト○エッチ、ランド○ジエ、カンニンハュ○ケー、モルガン○ケー、マンロウ○ジー、プレストン○平岩恒保○山中笑

敎員　イー、エス、ラーヂ○エス、エー、ウインテミウト○エッチ、ランド○ジープレストン○ケー、マンロウ○エュ、カックラン○水野峯子○西山ます子○早川みつ子○野村つき子○田村さん子○島田弟丸○都筑直○神津利策○外に助敎四人

○女子傳道學校　（築地明石町六番）

設立　明治十七年一月十四日　　生徒現數　二〇人

校長　ケート、エュ、ヤングマン　　委員石原保太郎○矢島かぢ子

敎員　ケート、エュ、ヤングマン○ミス、イス、デビド、タュソン○ミスイス、ロバアト、デビブトソン○加藤億○篠原銀藏○今井みね子○竹中まつ子○宮川つや子

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第百四十三號　明治二十二年一月五日發兌

社説

○新年を賀す。

何んとなく嬉しきは新年の曉きなり、大陽東天に紅ゐすれば万物一變し、たゞ自づからに面白くありて吾も人も浮立つべう思はる。密かに考ふれば一歳を加へたるが如し、然れども、たゞ昔しに歸りて若やぎたる如く思はるゝぞ不思議なれ、人生の長路七十年、吾人生れて一直線に直行し、若し月に省りみ、年に顧みるとなかつせば、其懶うきと幾干ぞや。日は出で日は入り復た其出し所ろに喘ぎゆくなり、風は南に行き又轉りて北にむかひ旋轉に旋りて行き風復た其旋轉する處に歸る、河はみな海に流れ入る海は盈るとなし河は其の出きたれる處ろに復還りゆくなり、然れども其の一往一來は四方の風景を變化し、變化のあるところ則はち其物の自から變化することを示す。今の時は昨の時にあらず、今の月は去れる月にあらず、去れる一年の來る新年に同じからざる蓋し亦之に均しき也、只だ吾人は其の區畫に到着して一紀元を感じ、去往今來を比較して大ひに思案熟考するとを得、之れ豈に大ひなる幸にあらずや。新年は何んとなく嬉し、願くは何んと申す理由のありて嬉しきはなけれ、毎年〳〵進歩致したきもの也。

○女學及び女子敎育、

緒言　女學雜誌。

古しへ希臘人は天地の美觀を稱してコスモスと云へり（ピタゴラス初めて之を論ず元と裝飾の義にして天地の景の甚はだ立派なるに名づけたるなり）、支那人も亦た古文に於て天に煥乎たる文章ありと云へり。つら〳〵宇宙万象の躰を觀るに、其の大ひなるは無極の空間に通じ、其の遠きは極高の星辰に達し、其の微かなるは顯微鏡下の極微細胞に入り、其の近きは眼前の木葉昆虫に至るまで、大凡そ万物一つとして相和せざるはなし、大小遠近秩然として整ひ、彼れ呼べば此れ應じ、此れ手を伸せば彼れ之を握り、相望みて莞爾、翕焉としてともに歌へり。宇宙万象の如此く調和する所ろ、則はち現はれて文章となり、コスモスとなる、詩人歌人は之が爲に歌へり、文人畫工は之が爲に寫せり、樂手玲人は之が爲に奏でたり、然るに万象は此等人間の力に優りて、古來大に自づから其の大調和を示しつゝあるなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

天地は斯迄に調和し、世間之が律呂を破るものあし、然るに此の調和したる美妙の音樂朗々たる間に立つて、澁面痛目、齒がみし罵しりて、獨り困しむものは、之れ豈に人間にあらずや。古しへより月は嘗て歎きたるとなし、其の歎きたるものは只だ月に吟じたるの人間ありき、花は嘗て怨みたるとあし其の怨みたるものは只だ花に詠じたるの人間ありき、秋風颯々たりと云へども世にかこつにはあらず、木葉落ると云へども何をか悲しまん、之にかこち之に悲しみたるものは只だ彼の慘憺たる人間にてありき、人間の言語は古來悲痛愁歎の辭はにて滿ちたり、彼が歌ふ所ろの歌は多くは愁歎あり、然らざれば多くは愁歎を消すの歌なりき、彼が論ずる所ろの問題は多くは悲痛あり、然らざれば多くは悲痛を減ずるの問題なりき、嗚呼天地は樂しんで歌へり汝ぢ何故に獨り愁歎する、天地は樂しんで安んぜり汝ぢ何故に獨り悲痛するか。之彼が一心の調和せざるに由るなり、ポウロ曰く、

わが行ふ所の者は我も之を是とせず、我が願ふ所ろの者我之を行さず、我が惡む所ろのもの我之を行ふ。是故に我善を行はんと欲ふときに惡の我に居る此の一つの法あるを覺ゆ、葢われ內なる人に就ては神の律法を樂しめども、わが肢躰に他の法ありて我心の法と戰かひ我を擄にして我が肢躰の中にをる罪の法に從がはするを悟れり。噫われ困苦める人なる哉、此の死の躰より我を救はんものは誰ぞや。

如此くわが一身には二人の主あり、彼等朴擊轉倒して寤寐夢中も尙戰かひを止めざる也、故に此の戰かひは七年よりも久しく、三十年よりも長し。一身すでに如此く修羅の巷となるが故に、一人未だ嘗て平和を得ざる也、一人未だ嘗て平和を得ず、故に一家未だ嘗て平和を得ざるなり、一家未だ嘗て平和を得ず、故に一國未だ嘗て平和を得ざる也、一國未だ嘗て平和を得ず、故に天下未だ嘗て平和を得ざるあり、天下未だ嘗て平和を得ず、之を以て天上の月自づから慘憺たるが如く、天下の風自づからに冷酷なるが如し、然れども天上天下の自然界は未だ嘗て其の律呂を破らず、獨り只だ人間の社界に於てのみ此の悲しむべき大破調を現じたるなり。此故に天下未だ嘗て寧歲あらず、國と國とは常に虎の如く睨み獅子の如く怒る(而して虎獅の睨怒は自然にして人は然らず)一國未だ嘗て太平あらず、政黨と政黨と人と人と常に狐の如く疑ひ狼の如く怨む(而して狐狼の疑怨は自然にして人は然らず)一家未だ嘗て和樂せず、親子兄弟婦夫氷の如く冷たく水の如く寒し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(而して氷水の冷寒なるは自然にして人は然らず)一人未だ嘗て安心せず、七情分裂して、一心に快叫するものと極痛するものとを存す、恰も水火炭氷並び起つて相ひ殺すが如し(而して炭の燃え氷の解くるは自然にして人は然らず)、噫人世はそれ困苦の戰塲なる哉。

然るに上帝は、水をして平らかならしめ乍ら、人をして安んぜしめざるとはあらじ、花をして玉の如くに笑わしめ乍ら人をして樂ましめざるとはあらじ、實に然り上帝は決して如此き苦痛を徒らに人間の頭上に落し玉はじ、若し實に其の苦痛ありとせば、此は必らず后に善ならしめんが爲ならん、然らずんば必らず此の苦痛を芟除するの助けを與へ玉ふならん、畢竟人世の大不調和は決て永遠に存すべきにあらず、今は存せり、然れども之れ必らず苅除かるべきものならん、吾人謹んで考ふるに、如此き苦痛の存するは反つて人世の幸福の爲めなり、左れば亦た如此き苦痛を苅り除くの方便歴々として世に存せり、故に吾々は只だ此の方便に據りて此の苦痛を芟除し、いよ〳〵修行練磨して、結局、大調和の美妙界に達するにある也。此を以て此の大調和を持來らするの方便夙に世上に存在せり、云く宗敎、云く道德、云く美術、云く哲學、是れ也。

宗敎の用は、神と人とをして調和せしむるにあり、道德の用は人と人とをして調和せしむるに在り、美術の用は情と情と及び神と自然と人とを調和せしむるに在り、哲學の用は國と國と、古と今と、天と地と、人と萬象とを調和せしむるに在り。故に宗敎、道德、美術、哲學の、四つの者隆んに行はるゝの日は則ち人間界に調和美妙の隆んに行はるゝの日なり、然れども今や宗敎の勢ひ尙ほ微なり、道德の光り未だ明らかならず、美術の好み甚だ低し、哲學の理尤も足らず、左れば人間界に依然として大不調和の存するは決して奇しむべきにあらざる也。之を以て僧侶は熱心に傳道し、聖賢は熱心に敎へ、美術家は熱心に理想し、學者は熱心に研究せり、彼等は皆な此の大不調和を調和せんとして盡力するものなり、而して此の間に於て其の尤も調和の役を擔當し實行するものは……即ち女子なり。

古來女子は未だ嘗て尤も大なる宗敎家道德家美術家哲學家とは爲らざりしなり、若し其の新議論を立たるの上に於て、其の一宗旨を開きたるの上に於て、其の一美術を創造したるの上に於て云はゞ、女子は遙かに男子に劣りたりし也、然れど

も抑そも其の所云る創造されたる一二の美術、開かれたる一二の宗旨、立られたる一二の新議論あるものは果して何程の功を成就したる乎、古來尤も多く世を益したるは此等の議論宗旨美術にはあらずして實に此等の議論美術宗旨を實用したるものにありと云はゞ、即ち女子の功は遙かに男子に優りたりし也。女子は直覺したり、熱信となりたり、實際に働らきたり、而らして

宗敎の尤も熱信ある傳道者、
道德の尤も純潔なる主張者、
美術の尤も高潔ある保護者、
哲學の尤も温厚ある實行者、

とはありたる也。

基督の將に死せんとする時、髮を垂れて其足を拭ひたるもの、十字架の下に立つて泣たるものは、是豈に基督の男使徒にあらずして、女弟子にあらずや。姦淫不義横行し、世界尤も亂逆無道なるとき、能く節を守り、道に死し、忠正純潔にして其の貞を盡したるものは、是れ豈に東西戰國の女子にあらずや。或は吟じ、或は奏し、其の態度はすでに美、其の言語は全く美、世界の無味に味つけ、万國の砂漠に水そゝぎ、至る所ろに馥郁の香を發つて天下を美にするものは、是れ豈に女子にあらずや。哲學者万卷の著書未だ世に功なく、究理必然の議論未だ得て人を慰さめ能わざるとき、一滴の涙を落して困厄を散じ、隻手の撫する所ろ既に大鬪爭を和するの功を爲すは是れ豈女子の德にあらずや。故に宗敎道德美術哲學の固有なる領分に於て尤も多く盡力したるは、固より女子にあらずして男子ならん、然れども宗敎道德美術哲學が世の大苦痛に對するの働らきに於て尤も多く盡力したるは即はち男子にあらずして女子あり。宗敎道德美術哲學に對しては男子は役々として之を研究するものなり、女子は直覺して之を實行するもの也。別言すれば男子は之に忠義ある動物にして、女子は之が天使なり。

現世は是れ古戰塲の如し、又戰塲の如し、又將に戰はんとするの陣頭の如し、細かに吟味すれば亂雜滲澹たり。又悲痛慨歌を混じ、又た殘虐の笑ひ、卑怯の泣きを聞くなり。見よ世話物、時代物、愁歎物の三劇ともに幕を開ひたり、勇膽の處行、臆病の未練相ひ隣りせり、高尙ある志望下賤なる望みに接せり、喜びと悲しみと輝いたる得意と暗き失望と並べり、笑顏と涙だと、相撲取と病人と、勇者と手負と、友人と敵と、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

平和と戰爭と、地中の富を耕やす所ろの鋤と血を浸す所ろの劍と、團欒和樂したる家族と喧嘩怨恨の親子と、佳人才子と空閨の怨婦と、玉兒を擧げたるの祝ひとラケルの痛聲と、戀娘の戀と貞婦の愛と淫者の姦淫と、愛國者と國を賣る者と、死する者の呻きと戰勝者の歌と相混合して存す、樂園既に失われて、未だ全く之を復するに足らず、パラダイス、ロスト既に再版し、パラダイス、リゲーンド未だ成らず、人間の大琴はすでに一二音を彈じたり、然れども律呂尚ほ調れず、世は依然として大破調の樂を奏する也。

然りと雖ども戰ふと云へば即ハち平和あるが爲め也、安からずと云へば即ハち安きあるが爲め也、暗夜に星辰尚ほ光を失はずんば、暫らくにして東天曉を示して四方白晝となるべし、故に今の大不調和は即ハち後代の大調和を示すもの也、其日天地獨り翕然として和するにあらず、天地人悉く和すべし、女子は即ハち此日に至る迄の第一の調和の天使たるなり。

慈善、敎育、看病、傳道、慰さめ、勵まし、此等は即ち女子が旗じるし也、而して此等の旗は即ち大調和のジヨルサレム城に達するの先導たり、故に尤よく此の役に應ずるを女性と爲し、尤も正く此の道を示すを女學と爲し、此の道に從つて敎ゆるを女子敎育と爲し、此道の爲に研窮し辨論し保護し實行するものヽ一を女學雜誌と爲す。

論說

〇人間の功業

中島俊子

或者冷眼世を罵つて人間の生命實に數「インチ」なり胡ぞ齷齪たるの愚を學ぶや若かず醉て醒む可し醒て醉ふ可し起て臥す可し臥て起く可し起臥醒醉優游自得せんにはと嗚呼何ぞ其腸の冷かなる眼の小なる世上誰か人生の數「インチ」なるを知らざる者あらんや左れど人間の生命極て長らずと云ふの故を以て此崇ぶ可き重ず可き肉と靈と併せて起臥醒醉の朋友となり奴僕となりて消失するに忍びんや。

社會上必ずしも學者の多からざるを憂へず唯其熱心ならざるを悲しむのみ又必ずしも識者の少なきを悲しまず唯其眞面ならざるを憂ふのみ學に達し識に富む者已れが其達すると進むとに隨て愈世間を無學に思ひ無識に感じ此無學無識の社會に仲間入するを忌み嫌ふと宛も身錦繡を穿ちて汚濁の中に坐するの思ひを爲し遂に世に隔だたらんとを望み人を避けんとを希ひ地球上唯已れ一人高く立ち明かに悟るものヽ如く思はれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

識らず知らず恣に世を罵るに至れり。

然ども錦繡を穿ちて汚濁の中に坐するに堪へざる者は未だ眞の錦繡を穿ち得る能はざるなきを得んや其之に堪へざる者は錦繡動もすれば汚濁に染まんとするの恐れあればなり何ぞ此汚濁の社會をして已が身に穿つ處の錦繡の美と變ぜしむるの勇氣なからんや世に隔たり人を避んとするものは未だ全く高く立ち眞に悟る者に非るなきを得んや蓋し其世に堪へ人を救ふの勇氣の乏きに因るならんか。

如何に世を忌み人を嫌ふと雖も能く自ら地球上を脱するを得るか人類を免るを得るか決して得可からざるなり唯世を避くるの爲を作し人に遠かるの形を爲すのみ人間の生命實に數「インチ」なり數「インチ」の人間素より自らも進み人をも進ましむるに齷齪たらざる可からず否齷齪たらずんはある可からず此數「インチ」の人間未だ輕しく棄つ可からざるなり未だ輕く賤む可からざるなり古より今に至る迄の世人が爲せし大業偉勳を見るに實に數「インチ」の動物には不相應はしきを知るならん彼線を空に架して千萬里程坐ら談話を通ずるを發明せしもの阿誰ぞ輕氣球を發明せしもの阿誰ぞ蒸氣船を發明せしもの阿誰ぞ千仭の山をも築かんと欲せば能く築くを得數十里の長流をも埋めんと欲せば能く埋むを得る者は阿誰ぞ即ち數「インチ」の人間ならずや見よ我國封建の弊習を撃破し去て明治今日の文化を致せし者は阿誰ぞ亦是數「インチ」の人間ならずや數「インチ」の人間果て棄つ可からざるなり果して賤しむ可からざるなり余は唯言はんと欲す人間の生命勉むれは長く怠れば短し事半ばにして身死すとも其事業を間接に直接に相續する者の世に絶へざるを信ずればなり見よ維新以前勉て無智を學び無學を崇びし婦人が今日の地位に迄達せし進歩の速力驚くに餘りあらずや人或は云はん是れ世の風潮なり世の變遷なりと然ども世の風潮世の變遷決して優游起臥の間に來るものに非るなり婦人の進歩素より婦人に向て試みずんばある可からずと雖も婦人外の進歩大に婦人をして進歩せしめたるなり而て婦人が進歩せし其功益快樂素より婦人の中に在りと雖も亦却て大に婦人外に在るを認むるなり婦人の教化決て些事ならざるなり婦人外の事業亦必ずしも偉なりと云可らざるなり而て婦人の進歩今日に在りて大に喜ぶべしと雖も亦今日を以て足れりと爲す能はざるは蓋し世人の知る處ならん我國婦人の腦髓決して鈍きに非ず決して低きに非ず風習彼をして鈍からしめしなり低からしめしなり教育以て彼を鋭か

らしむ可く高からしむ可し鋭からしむ可くの故を以て高からしむ可きの故を以て誤て又危險に陷るの恐れなき能はず如何となれば婦人の定見今日太だ幼稚なるを以てなり婦人の進步以て足れりと爲す可きに達するは今日力を婦人社會に竭す人々が生存中に見るを得可きか恐くは其人々も難きを知り玉ふならん其一生中に遂げ難き見難きを知て之を始め之に竭すの勇氣と決心とは其人ゝに向て深く感謝す可きなり。

女學雜誌が昨年世に發表せらるゝものゝ中を見るに其男女交際を論じ日本の家族を說き婦人修身の覺悟を論し舞蹈を難じ無名の英雄を崇び戸内の戰士を慰め將來の和歌將來の日本人民を論說せらたり、余素より茲に其議論の如何を說くを望むに非るなり然れども其女學雜誌が自任するの勇氣と人類を念ふの愛情とは余之を感謝するの言葉なき也女學雜誌記者も亦數「インチ」の人士なり左れど其功勞と其相續者とは決して世に消失せざるを信ず今此新年に當り女學雜誌が舊年の功勞を回顧して之を感謝すると共に愈此勇氣と愛情とを增加せられんとを希望す。

The boast of heraldry, the Pomp of Power,
And all that beauty, all that wealth e'er gave,
Await alike the inevitable hour:—
The Paths of glory lead but to the grave.　Thomas Gray.

○第三回女學演說
印度女子敎育の景況

プンヂッタ、ラマバイ述　佃與二郎 記

今日爰に、多勢の女の方や男の方の集られたるを、私は誠に嬉しく存じます、扨て私は先づ、印度婦人の事に就て聊か述べまして、次に宗旨の事を少し申したる上、續きて敎育の事をも少々御話したいと思ひます。

印度の昔しの本を看れば、今日とは大に異りて、敎育を受けたる婦人の澤山在りし事を識ります、然るに右の如く敎育を受けたる女は、政府の事、又社會の事に於て、色々と力を盡し、又力を竭さんと致したる者で御座います。然るに女子の働くべき所が段々に狹くなつて、追ふ男子に力を與ふる樣になりまして、最後には、男子は女子を以て奴隸とする樣な有ますりまして、樣になりました。然うして坊さん達は、女たる者は夫を見ること恰も神の樣にしなければならんと云ふ、掟てを出しました、右の如き掟ては出ましたが、敎育ある人は直に之を信認する事は出きませんが、こは女の道として正しき者あるや否やを反問するに至りました。然るに右の如き掟を出したる所の坊さん達は、女子に敎育さするのは惡るい夫を神の樣に思

はぬから教育さするハ宜しくないと致しました、其上にも、女と云ふ者ハ、臺所に住居すべきが當り前で、外の事にハ關係を持たないでも宜しき樣に申して居りました。然うして女の爲すべき事ハ、如何にと云ふに、第一に料理する事を覺へ、次に小兒に注意する事、次に夫の事を注意するだけであると思ふて居りました。

其の後色々奇妙の事が起つて、女子が本を讀み勉強するに於てハ、必ず夫を失ふと云ふ如き考を持て參りました、且つ其國に於てハ、良人は蝙蝠傘である、傘ハ能く日を避け雨を防ぐ事が出きる、良人は此傘を以て妻を賛けると云ふ樣な考を持て居りました、併しながら婦人が次第に教育を受けますると、良人の傘ハ入用でなく、妻躬ら其傘を用ゆる事が出きる樣になり升。

且つ又彼等の考に、女ハカラマッて居る者の樣に思ふて居りました、此故に少しも教育を授くる事を許して居りません、又教育を受くる事も受けさする事も必要とハ思はず、又他に勉强する事も必要とハ思ひません。

併し幸の事にハ、自分の子を教育するを好む細君や、自分の子供の勉强するを喜ぶ所の婦人が出て來ました、併し右の如く己れの子供を教育するを好む細君や婦人ハ、社會に尊とまるゝかと云ふに、却て其子を無智にして置く方が尊とまるゝのであります。

當今に於て何程の無智なる婦人があるか、今諸姉妹諸兄弟の御考を惹く爲めに一寸之を申しませう、即ハち當今に於てハ一億二千二百万の女があります、而して千八百八十年にハ丁度二十万の女だけハ本を讀む事が出きました、此等ハ皆學校に在る所の書生です。

學校にも政府の建てたる者もあれバ、一己〱に建てたる所の學校もある、尤も只今ハ男子の事ハ申しません、只女子に就てのみ云ふのですが、其學校に通學する者ハ、總て九歲以下の者です、故に九歲になれバ其學校を退かなければならんのです、其の後ハ最早本を讀む樣な事はありません、又其後ハ少しも進步する樣な事ハありません、是に於てアナタ方ハ、政府の建てたる學校若しくハ其他の學校に於ても、女子の學力は充分に進步し得ないと云ふの證據ハ、御解かりになりましたらうと存じます。

扨て、私の國にハ六ッの學校がある、其中四ッハ政府の立てたる者で、殘り二ッハ傳道の爲めに建てたのです。而して九

歳以下と云へバ、其の勉强の時間たる實に僅の者では御座いませんか、右の如き次第ですから、私の國でハ、誠に高尙の教育を受けたる女子ハ太甚だ少ないのです。

千八百七十年にハ、カルカタの大學校に於て、男と同じく女子も教育を授くると云ふ事に爲りました、當時六人の女の方しか入學する事ハ出きませんでした、其の時の一人ハ、マストル、チフ、アーッと云ふ尊稱を受けました。

此外、カルカタにハ、女子教育の爲めに三ッの學校がある、其學校に於て、或女子ハ教師と爲る支度を致して居ります、爰に勉强する者ハ、三ッの本の外にハ、他に高尙の事を學びません、第一は算術書、第二は地理書、其他は歷史の書です、其の地にハ目下三百人程卒業したる女があります、併しアナタ方も御承知の通り、三百人の卒業生が有ても、三ッの本しか讀んだ事の無き者ですから、其力も亦思ふべきです。

此故に只今に至りてハ、次第に教育を受けたる女が必要になりましたが、然し私共の國でハ、依然として女子に高尙の學問をさする事を好みませんで、早くから婚嫁の事を議します。

此の前既にアナタ方に申したる如く、私の國にハ大層の寡婦がある、其數は二千有餘万人です、而して其の寡婦ハ、社會の人民より非常に酷待されます、其中六十万の寡婦ハ十九歳以下の者です、又其中の七万九千人程ハ九歳以下の寡婦です。只今申したる如き若き寡婦ハ、皆何れも位高き者に屬して居ります、而して寡婦は何れも罪人の樣に思はれますから、早く此世を去りたいと云ふ如き考を有して居ります、故に外國より渡來して宣教の任に當らるゝ方々は、右樣の考を止めて、教育致す樣に御盡力致して下さる、併しながら國内の者共ハ、無智を崇ぶの心よりして、此の少女を教ゆるを妨ぐる樣に致します。

少し以前に、私は印度内地を旅行致しました、其の時私ハ多くの家に參りて、寡婦が非常に酷待せらるゝの實況を視ました、而して私はそゞろに斯う云ふ考が起りました、若しも寡婦達を教育して、自由の生活を遂げ得らるゝ樣になしたらば、私供にとりて最も大なる益を爲すとが出きるだろうと思ひました。丁度其時私と同じ友達がありましたから、如何にかして私は學校を建て、此の苦域に呻吟し居る婦女子を救ひたきものであると話しを致しましたが、其人々ハ餘り女子の教育に熱心でハ御座いませんでした。或る有力の人の申すに、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ソレには適當の時の來るまで御待ちなさいと云ふやうな事を諭されました。其の時私は申した、ケレ共、私は時の來るやうに致しませう、若し時が來るやうに致しませんならば、時なる者ハ決して來る者でハありませんと答へました。又隨分に氣の强き人も有りまして、如何にもお前さんの志を賛けませう、併し金錢を以て助ける事は、出きませんと申し出でたる人もありました。（未完）

批評

（87）○婦人及び家政　小本一册百六十四頁正價十錢　東京日吉町廿番地民友社發兌

此書は嘗て國民の友に出でたる、日本婦人論、家政改良論（金森通倫）、子婦は舅姑と別居すべし（植木枝盛）、社交上に於る婦人の勢力、婦人改良の一策（中江篤介）、賣婬公許の事（植木枝盛）、の六篇を、垣田純朗氏が編纂されたるもの也、各篇の批評は其時々本誌上に掲げたれば更めて言ハず、書物は躰裁簡美潔快にして、極めて調寶なる可愛らしき小册子也。

○もしや草紙に就て（其一）　不知菴主人

もしや草紙は三馬の背骨と、風來の筋肉より成れる死躰にして。其躍動するは神魂あるにあらず、電氣に感ぜしなり。再言すれば、傑作なるにあらず、流行に投ぜしなり。元より著者は小説家にあらず、殊に此編は初作なれば、是に嚴密なる批評を下すは頗る無理なる事にして、素人畫工を責むるに探幽應擧等の名匠を持出すが如し。然れども江湖の讀者皆是を激賞し。ある新聞の如きは「もしや草紙出て詞壇色なし」と云に到る。蓋し著者は雄文達識を以て一世を壓倒し、世間其大名に眩惑すれども、議論に精なるもの必しも詞人にあらず、事務に通ずるもの豈小説家ならんや。もしや草紙を讀む者曰く社會のアラを盡く槐集したり、滑稽諧謔人頤を解く、諷誡極て妙なり、想像に富めり、人物の形容に巧なり、文章獨歩にして頗る奔馳せり、新文字新言語多し。其他曰く何、曰く何。千言万語嘖々として稱揚し。天晴櫻痴居士をして明治のユーモリスト（或はサタイアリスト）たらしめんとす。「牡丹餅は棚にあり成敗は運に在り阿呆は働け果報は寢て待て」とハ淸水潔の述懷なるが櫻痴居士寢て待て果報にありつく。もしや草紙全篇五十回、讀了て妙味感情毫も浮ばず。縱令ひ下宿料算段の爲に筆を舊ふ似而非ヂスレリーの比にあらざるも、宣詞壇の看軸を以て許すべけんや。櫻痴居士は希世の大才子なりとも、もしや草紙を以て一躍して三馬風來の兄弟分となるとは、仕合

なる哉。仕合なる哉。
今假りに專門家の作と見做せば、脚色に乏しく意匠に貧あり、人情を寫すに吝にして形容を描くに疎なり、好句妙語少くして冗漫不妥の文字多し、議論に流れ極微を寫すに拙なし。社會のアラを盡く（「盡く」とは間ちがひ一局部にすぎず）槐集したればとて何ぞ感服するに足らんや。「此政治小說はヨクモ佳人と才子と演說と禁獄とを湊合したりと」云ふに全じければなり。圓形はコンパスを以て畫すべし、直線は定規を以て引くべし、曲線は中氣病人自然に作るべし。然れども滿月波濤を照すの圖は名匠の手に賴りて初て豪壯たるべし。佳人才子を仕組む事極て易く、其心腸肺腑を解剖するを以て小說家の能とす。もしや草紙の立役者淸水夢野お賢乙女等何れも其皮相を寫せしのみ。洋服を着たるは淸水にして鬚を生じたるは夢野なれども、若し嘲弄と滑稽とを除却すれば宛として木偶人の如し。著者或はスウヰフト氏を眞似して、「浮世は人形芝居の如しと諷せるなり」と云はるゝあらんが。全篇の結構より評すれば、淸水夢野の兩人は社會の判斷者にして、パウエル及ストレッチあり。是を木偶人とすべきにあらず。然るに此兩人は毫も人間の活動を爲さず。著者の口吻に隨ひ縱橫に馳騁すれども神魂あるにあらず、其の奇と曰はれ妙と稱せらるゝは、讀者の嗜好に相應せし故あり。
爰に再び主人公淸水潔を案ずるに。淸水は著者が一心全躰なるが如し。昔しアヂソン氏ミルトンの諸篇を評して曰く「諸篇の人物は皆著者が性情を寫せり即ちミルトンが更身なり」と。余は此顰に倣ふにあらねど、其境遇其不平其議論（迷て見れば其容貌）に賴て臆測すれば淸水は著者が鏡影あり。斯は兎もかくも淸水は不思議ある人物なり。停車場にて僅かなる事より馭者を罵り却て是に嘲けらる、極て輕躁なるが如し。十五年振にて出京し、上野と佐久間町河岸とを混ずる不案內、殊に日本の社會に暗き筈なるに、僅かにして忽ち「我もの」の變調を誦するのみか、嬌風會席上にて團十郎が舞踏を感心したるは頗る通人らしく。又就官する事僅に三月にして辭職したるは大に識見あるに似たれど、意を曲て長者に從ひ、說を抑へて國會に入るは意氣地に乏しきかと思はる。其他夢野に說かれ、染井に勸められ、乙女に泣かれ、要するに其行爲と其議論と不相應なるが如し、蓋し世間の學者紳士大抵如此と曰へばいふもの丶、一方に於て特別の保護を與へ一方に於て尋常の缺點を擧ぐるは、性質の一致を犯したる者にして著者

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

が失錯と云はずして可ならんや。夢野實も不思議なる人物なり。初て顯れし時は希臘の古哲春秋の隱士に似たり。然るに漸次進化して小説を著はし脚本歌謠を作るのみか、曾て清水に向て處世の秘訣を敎へ忽ちに官吏の内幕を却て清水より聞て吃驚したる迂遠の紳士、豹變して事務に通じたる政論者となり。終には夢野が清水か、清水が夢野か、水に影のうつらふ如し。夢野の議論に冠するに清水を以てするも不可なき計りか、清水も夢野も其性情を仝ふするに似たり。夢野は滑稽に富む、清水も滑稽に富めり。夢野は嘲弄に巧なり、清水も嘲弄に巧なり。夢野は雄辨なり、清水も雄辨なり。夢野は著作の才あり、清水も著作の才あり。唯夢野は淡泊なれども、此一事を除けば（即ち仝躰より觀察すれば）夢野も清水とは異躰同心、寧ろ一人二姓の非難を免るべき。是れ亦著者が失錯と云はずして可ならんや。次にお賢と云ふ婦人あり。著者は卷中の人物に冠するに赤沙汰侯生質子爵皺井長者等の名を以てしたるに、殊更にお賢と名けたるは賢良貞淑の意を偶せしならんに、二十三頁に「旦那どりをさするか柳橋にでも出したらお前も樂が出來て宜かろうにと申す人もありますが當人は縱令乞食見た樣になつても其ンナ恥かしい躰になるは否だお母さん一人はどふかして貧乏なかにも私が稼いで食させるからと申しますので私もソンナラさうと申して」とあり、此詞より推測すればあまり賢なりとも思はれず。乙女も年よりませたるが如し。是れは兎にかく藝妓妾になるを厭ひし識見高き乙女が後年俳優となるとはいぶかし。かく云へば明治三十七年の梨園は今日とは相違せりと辨護せられんが、西洋の舞臺を十五年間勤めたる清水は「貴孃にソンナ稼をさせては余の顏が立ちませぬ」と云ひ、交際場裏の立お山巣鴨夫人も「眞逆に藝人が上等の附合に入る事は出來ませんよ夫に後日になつて清水の奥さんは女優であつたと申しては一生肩身が狹いぢや有りませんか」と云ふ。夫れ計りか諸紳士が通路に對する擧動を見ても役者は今日の藝人と仝じく、三十七年の社會猶ほ是を擯斥したるを知るべし。乙女は夢野の如き偏見者とも思はれざるに、其當初と異なるは何ぞや。ヨシ一歩を讓りて當時の俳優今日の比にあらずとするも、乙女が芝居に入りしは十九歳にして裏店住居の時より一年後なり。如何に乙女は機敏怜悧なりとも僅々一年の星霜何ぞ一坐の坐頭となるを得ん。殊に百十二頁に「淸元と長唄は其お稽古を手傳ひ踊の方も助教とやら申すものに成つて居ます」とあれば、

（一二）

乙女は裏店住居をせし十八歳の時に於て一ト通りの游藝を心得たるものならん。三十七年の芝居既に立派なれば三十六年の役者も下流ならざるべきに、乙女は何故にハンケチを縫て役者になるの良策を氣附ざりし歟。是れ亦著者が失錯と云はずして可ならんや。夫れ此の如き缺點あり。而して無用なる郡樫藏を形容するに三頁を塡め、男は博士となり女は座頭となりて夫婦となると云ふ陳套に筆を結びしは、最も拙にして。世人が嘖々するにも關らず、余が傑作にあらずと云ふ所以なり。(未完)

叢話

○舊年を送り、新年を迎ふ。

舊年を送り、新年を迎ふとは、抑そも何の意ぞや。去年十二月三十一日の夜、一歲全く去らんとして只だ數時間を殘し、除夜の鐘聲未だ消えずして、新年の曉鐘尙ほ聞えざるとき、女學子憮然として長歎して曰く、日月の過るは梭の如くあり、余れ此の一歲に於て何をか織りたる、錦あるか、綾羅あるか、將た繿縷なるか、席ろなるか、瞑目して之を想ひ彌よ慷歎せり、而してクリスマスの來るに喜こび、新年の來るに樂しみ、舊年を送りて轉た﹅新らしきに向ふが如く感ず、抑も此れ何の意ぞや。

舊年の去つて新年の來るは、余が命の短縮するあり、假りに七十里を旅行して而して死すと定めよ、余れ一日に十里を旅したり、客舍に一睡して朝天を迎ふ快よからざるにあらず、然れども矢張り一日の命を縮めたるなり、斯くて一日に行て一日を減じ、七十里程端なく旅し去つて、第七日に溘焉として死せば何如ん、人生の新年は恰かも如此し、門松は命途の旅の一里塚目出度もあり目出度もなし。

故に功名を追ふて走るは甚はだ活潑なりと雖ども、其の走るいよ／＼速やかにしていよ／＼速かに死に近づくなり、言を寄す全盛の好顏子、憐れむべし半死の白頭翁、此翁白頭眞に憐れむべし、伊れ昔し好顏の美少年。

孔明は知己に感じ止を得ずして應じたり、正成は恩命を謝し自ら忘れて出でたり、クロムエルは壓制に激し自ら知らずして起てり、此等の人は時に會せずんは一人の農夫一人の隱士なり、左らば今ま時に會せずして田舍山間に死し、死して葛の陰一小石の下に葬らる﹅もの定めて多かるべし、或は一旦時に會し、風雷の如くに轟ろきて万世に功名を遺すものも、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

死して北邙一片の烟となつては、孔丘も盜跖も同一の塵となるなり、眞とに此に大ひなる石碑の建られたるもあり、其の建られたるも義士に擊破せられて碎けたるもあらん、然れども地上の石碑は大小精粗の如何んなるを問はず、惣べて是れ一連續したる地球の土中に葬むられたり、而して犬も豕も盜賊も皆な均しく之を足下に踏めり。

多くの瑱珠は深き海底に沒す、多くの花は深山の奥に開らく、多くの義人英雄は一事業をなさずして死する也、啻に之のみにあらず、名家の誇りや、權者の華美も、惣べての富も、惣べての美人も、悉く死と云へる免る可らざるの時を待ちつゝ進行す、何如なる人も死せざるとなし、何如なる人も死に向つて進まざるとなし、而して何如なる新年も死に向つて近づかしめざるとなし。

如此き新年の來復したる何の故に樂しきぞ、余は慟哭して將に之を弔せんとするなり。然りと雖ども、花は滿開したり實を結ばんとして先づ落つるは當然なり、好顏の佳人は全盛したり其の形骨の漸やく衰ふるは當然なり、人の靈魂に至つては未だ甞て滿開せざりし也此のまゝにして忽焉消滅せば遺恨何ものか之に若かん、確信す宇宙の上帝は決して如此きとを爲さじ、確信す余が靈魂は滅せざるなり、肉躰死するの后ち尙ほ存していよ〳〵進化すべしと。如此く見來れば、七十年の生命は實に永生の一短路なり、余れ之を畢つて更らに行くべきの地あり、亦何ぞ怨みん、朝たに道を聞て夕べに死すとも可也、肉を亡ぼすものは余之を恐れずたゞ命を亡ぼすものは余之を恐る、舊年の去る必しも悲しまず新年の來る必しも喜ばず、三省して余が德の進みたるや否やを思ひ、更らに舊つて過ちを再たびせざらんとを盟ふ。

○女博士ラマバイ及び其事業を評す

吾人は英米より來る新聞雜誌に依りて夙にラマバイを知りたるが、今は親しく之に面會し、細かに之と談話して、其意中を悉し、更らに一層に其の人物を高しとし、且つ其の事業の有力なるとを感ずるなり。彼は風采極めて質朴にて進退甚はだ淡泊なり、之と談しすれば滑稽百出して寧ろ輕燥なるように見ゆるが、議論一と度び重事に涉れば勃然として奮立し、眼光頓いかに輝やき雄辨流るゝが如くなり。吾が友某甞て米國の首府ワシントンの市中に突出ち、雲の如き大紳士花の如き貴婦人が絡繹として通行するを見て大ひに嗟歎し、東洋異人種の身を以て此間に單立し、敢て頭を屈せざるは非常

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の豪傑ぞと感じたりとなん、然るを況んや亡國の一婦人にして英米の紳士貴婦人の間に圍まれ、身に自國の服を纏ひ、口に肉を食はず、優々として自信する所ろを主張し、敢て一般の信徒に媚びず、數多の駁撃に會ひて能く其の信仰を明言したるは尋常の事にあらずと思はれたるが、今其丈低き躰色黒き醜顔色を以て堂々として西洋婦人の間に混じ、快笑放論して顧ざるを見れば、實に是一個の女丈夫とは認らるゝなり。而して其事業を以て直接に傳道の事業なりとは云はず、之れ基督教徒の事業なりと云ひ、印度數十万の高族寡婦を救つて之に獨立自存の方法を與へんと盟ひ、學校に於ては必らずしも聖書を教へじ、然れども基督の精神を充滿せしむべしと明言し、單獨確信して此の大任に當るは、實に高尚の覺悟にあらずや。惜しむらくは其の日本に留まるの日數甚はだ少く、其の親しく談話したるもの尤も少なく、彼れが意中尚ほ未だ明白に知られざるとあり。故に余は其の書狀及び其の意中を示すに足るの問答一篇を掲げ、友人既に去ると雖ども、彼が志をして久しく此日本國に明白ならしめんとを願ふ。而して女學未だ開けず此處に多くの爲さねば成らぬとのある此地に於て、實際彼が事業に助力するは、只だ其の著書を買ふに止まると信じ、敢て此の一事に盡力したしと存ず、世上同志の人希はくは前號の廣告欄内を見て、應分の助けを與へよ。

○歌の記三つ

末松謙澄

やんとなきかたの御歌二首

青萍逸人謹識

さきつころある大臣の遠き異國に行き玉ひける折明朝は門出と定まれる前夜日比取別け懇意にし玉ふ男女のかた〴〵大凡五六十名ばかりも招かれて夜深るまで留別の宴を催されける此夜己れも席末に加はりぬるが樓上なる婦人方の溜の間に赴きしにいと珍しき幅物二ッ三ッ壁にかけ列ねありそが中に大和歌かける短冊二葉を裝ひたるもの一軸あり記名なければ誰人のものせしか定かには分ねども手は婦人にして文字の姿と云ひ位置と云ひ歌の心ばへまでも尋常のものとは思はれず已んごとなき御方のものし玉へること疑ふべくもあらねばそと寫して秘め置きしが今ま事の序でに記るして女學雜誌社の巖本君に贈るになむ。

野春雪

若菜つむ袖さへ寒し消かての
野あかの松の雪のしつくに

窓前夜雨

ふりし世をかたらふ窓の月更て
雨にありぬる軒の竹むら

同じやんごとなき方の御歌につきて　青萍追記

前の二首を詠じ玉へる已んごとなき御方は歌の嗜みいと深からせられ名吟も少らずと承る或日男女同權てふ御題を賜りし折

山松に立ならひても青柳の
よはき姿は見ゆべきものを

と即吟遊ばされし杯は流石賢女の心ばへ顯れ又車駕北巡の頃

大宮の内にありても暑き日に
如何ある山を君は越ゆらん

ともの玉ひしなどはやんごとなしとは云へなほ戴く所ある御身の深き御情の穗に出て世の中の婦女の鑑ともなりぬべくいともかしこし但此歌は傳聞の儘を記するなればかなの誤あるやも計られず若しあらば讀者幸にこれをゆるし玉へ

山縣中將の歌につきて　青萍復記

菊地金吾となん云へる翁は岩手縣盛岡の資産家にして尊王の志篤し先つ年車駕北巡の折畏まく蹕を其家に駐め玉ひぬそが庭前に一株の松ありて其枝振いとも珍しくて御覽に留り見馴の松てふ名を賜はり翁の愛養殊に深かりしに其後翁の家に火災ありて松も燒けて枯にしかば翁はあるにもあられず泣き悲みけり其事上聞に達せしかば憐れに思召され植継の爲めにとて禁苑の小松二株を下し賜はりしとは其頃の新聞にも見えたり其松今は次第に榮えぬ一昨年山縣中將が北海道巡視の歸途盛岡に立寄られし折翁の望にまかせ松の木振を見て都の語り種にもとて其家に過り玉ひ

更るまで過し昔の物かたり
月を見馴の松の下蔭

となん詠じ玉へり此歌前のやんごとなき方の窓前夜雨の御歌と其姿稍同じければ因に此處に記し侍りぬ。

○演藝矯風會には失望せり　石橋忍月

吾人は演藝矯風會に望を屬すると甚だ大なりし故に其發會に於て特に會員諸氏に重を推して卑見を陳述せり然れども過日千歳座に開ける第二次會の大演習會を見て大に不滿足なる所あり否な不滿足と謂はんより寧ろ絶望せりと謂ふの外なし吾人は演藝矯風會は演藝上古來の弊風を矯頁するものなりと信ぜり然れども今度の演藝は如何なるものなるや之を聞き之を見るもの誰か不快の念を起さゞらん矯風の字を頭に戴く會員諸氏は何か故に北州「千年壽」の曲を撰て昭舞せしめしぞ何か

の故に鞘當の場を出て此公會を結びしぞ「北州」の曲れ新吉原花柳の狀を寫せしものあるを知らざる乎「鞘當」は放蕩賤劣の二艷冶郎が一娼婦に戀着して刄物三昧の殺風景を引き起せしものなるを知らざる乎其他仙臺萩の序幕に於て貴族が吉原の遊里に入りて今しも日本堤を歸る塲を出せしが如き重々の不都合と謂はざる可からず之を見聞するもの果して如何なる感情を惹起するや淺俗の輩は不破名古屋の華奢を見て吾も之に倣はんと欲し八文字の道中姿を見ては吾れ亦た一たび彼里に入りて之を實驗せんと欲するあるべし之に反し淸潔高美の心を持するものは面を蔽ふて之を見るを屑しとせざるべし當日來會の方々は概ね君子淑女なり君子淑女之を見聞して胸中に不快の念を起したるや知るべき也嗚呼此の如き野卑なる不都合なる演藝を公覽に供して會員諸氏は毫も恥づる所なき乎矯風の字に對し高位高官の君子に對し高傑淸美の淑女に對し顧みる所なき乎吾人は會員諸氏の無頓着なるに驚かずんばあらず此の如く淺俗の輩には害を與へ淸潔高美の士女には不快を與ふるの演藝會は寧ろ之れなきに優る何となれば矯風の目的を達せずして弊風を助くる一手段となれば也故に吾人ハ曰く演藝矯風會には失望せりと。

○萬國赤十字社大會の感(五)

石黑忠悳述

府知事饗宴並に大妃日本扇の事　第三日（九月廿四日）。此の夜はカル、スルーエ府知事が府民に代りて會員を同府の美術學校へ招かれ相客が千二百人程も有りました。バーデン太公及び妃殿下を始め、親王大臣方も御出でになり、妃は先刻申した米國の委員クラ、バルトン夫人と御同乘の上へ、音樂堂迄で手を携へて御出になつた。時定るや、正面に一人の美麗なる婦人が正服にて立ち、傍らに小禮服を着けたる役者が一人立つて居る、（宮内省の役者）先づ簡短なる演說を爲し、諸君の勞を慰むる爲めに、府民より只今音樂を御聞せ申すと述べ終り、次に正面なる麗人が靜かに進み出て、唱歌を奏し、十七八名の樂手樂を奏した。其の歌は、赤十字總會の爲めに遠く來られたる人々の爲めに作りたる新製の歌曲で、仁愛を主としたる歌です、（其の唱歌は餘り長くもありませんし、原本を携へて參りましたから、後日譯して御覽に入れませう）右終りて、知事は各員を隣室に導き、酒菓の饗應が有りました。其の時、バーデン太公妃殿下は、殊に日本委員の前に進み玉ふて仰せらるゝには、今夕定めて卿等を見るであらふと存じ、之れを携へ來たと云ふて、示めされたのは、即ち日本

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

製の墨塗の蒔繪のして有る扇で有る、毎晩の樣に御目に懸る事であるから、御話の種にも實に盡るのです。私共實に感心致したるのは、王妃殿下を始め、貴婦人方が御話しの手懸りを、何か探がして御出にあり、樣々の問答が始るから、却て私共が御話しを申し上るに苦しむ位で有ります、其の爲めにところ、畢竟扇を携へられたので、且篆書にて、仁義忠信と書いて有る字を指して、是れは何かと問れましたから、左樣我國に行れて居る所の文字で有ると答へた、トコロが、何んと云ふ字で有るとの御質問ですから、最初の仁と云ふ字の意味は、則はち慈恵に厚き赤十字事業の如きを指す者で有ると答へた、然るに、妃は更に、之を卿に見せて、卿は故國の物を見て悦こんだであらふし、予は又た東洋の文字を一字覺へたと仰せられた、如何にも感心の御世辭と感服致しました。

例の洋服論再燃の事　次第に興も盛んになり、右にも左にも種々の談話が有る、其の中ち、昨晩衣服の問答を致したる貴婦人が參られて云へるゝには、昨夜アナタのお語しを聞いて見ると、全く私が新聞で今迄聞いた所とは違ッて居る、日本の女服は、古今内外の宜しきを採り、折衷致したるものを着て居ると云ふ次第は、了解致した（此の貴婦人、學問もあり隨分八釜しい議論好きで有るなり）、併し歐羅巴の服も、古へより種々變遷して、遂に今日の如き者と相成ッたので有るから、今歐羅巴婦人の着て居る服も、日本新制の服と云ふも、澤山の違ひは無からふ、ト云ふ質問で有るから、左樣、此が違うと云ふて、私共には一點も見分けは就きませんと申した所が、左も有る可き事と思ふ、併し　皇后陛下が古今内外の宜しきを折衷遊ばされたとは、誠に感服の次第で有る、（大層折れてきました）、就ては、　皇后陛下の御寫眞を卿は持參して居るかと問はれました。全躰私は内國の旅を致すにも、兼て賜ッたる　兩陛下の御寫眞を、カバンの中に入れて置きまするので、軍人と申す者は、イッ何時何の樣あ所で死ぬかも知れぬから、何時でも御別れの出きる樣に、大切にして居る、ソレ故答へまするには、「私は御寫眞を所持して居る、御覽になりたいあれば、私の旅宿に御出なさい」貴婦人は曰く、「私は實に貴國　兩陛下を拜する事を悦ぶ」と、私は猶申しまするのに、「私の持參して居る御寫眞は、十餘年前に頂戴致したので有るから、未だ新制の服を召して居らぬ時の御寫眞で有るが、ソレで宜しいかと念を押しました所ろが、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ソレは倘一段の事で有る、日本婦人の書は、種々歐羅巴に於ても見懸けるが、高貴の御方が正裝されたる古への服は未だ見た事が無いから、明日御尋ね申すから見せて呉れ」と云ふ事で、別れました。（未完）

〇百人一首一口話　（十七）　鈴木弘恭講　八木鶴二錄

在原業平朝臣

ちはやふる神世もきかず立田川
　からくれなゐに水くゝるとは

此の歌は。古今集にのせてありて。詞書に二條の后の春宮のみやす所と申ける時に屏風に立田川にもみぢながれたるかたをかけりけるを題にてよめるとあり〇立田川は大和の國の名所なり〇からくれなゐは。韓呉藍にて今の紅染也。紅色はもと三韓より渡りし呉染が尤もうるはしかりしゆゑに。好き紅色をからくれなゐとはいふ也〇くゝるは。絞る也。天智紀に纐纈を外國使に賜ふことが見えてありますから。此の頃より巧みに絹布を絞りて紅染にすることが流行したることにて。今の緋絞といふもの（縮緬や絹を絞りたる）と同じことであります。またちはやぶるは神といふへかゝる冠詞なり。ちは威稜也。はやぶるはハヤルことにて。ちはやぶるかみ

（一九）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とれ。威稜の隆盛なる神といふ意にて。神を稱美したる義也。然れども此の冠辭あるものは。總て詞辭を優調にのぶる爲めに多くは用ゐるとにて其意は輕し。たとへば久堅の天。新玉の年。などいへるも。たゞに天また年ともいふべき所に。ひさかたの。あらたまのといふ冠辭を加へたるなり。今此の歌もたゞ神世といふべき所にちはやぶるの冠辭を加へたる物と知るべし〇一首の意は。神代にはさま〴〵の珍奇ことも多くありましたが。その神世にも聞きませんでした立田川の水を韓紅に絞るといふ事は。さてもさても面白きことであるぞ。紅葉の水上に散り浮きて流るゝを纐纈に見倣してよめる也〇語格は。一段切れにて。神世ものもが指辭にてきかずのずにて結びて切れたり。さて五の句の水くゝるとはといふより上へ打返して意の通ずる格であります。

又云。業平朝臣の歌は。古今集の序にも。情あまりて詞足らず。と貫之ぬしが評じたるが如く。月やあらぬ春やむかしの春ならぬ我身ひとつはもとのみにして。といへる類の歌が多くありますが。此千早振の歌とかの都鳥の歌との二首は。至りて申す旨なき歌であります。故に定家卿は此歌を業平朝臣の歌中の傑作として採られたのであり升。

〇島田三郎君通信

歐米婦女子の景況（其四）

婦人の衣服並に舞踏の事聞き得候儘左に附記仕候尚ほ委はしきとは後日十分に調べんものと存じ居り候小生寓居の家主人チーン孃は一見識ある婦人にて讀書を好み交際も廣く社會の事物に注目せる人なれば談話の際近頃米國の婦人が書を日本婦人に贈りて洋服を用ゆるの不可を忠告せる事に及び小生の考にては日本婦人從來の衣服は運動に便ならず特に幅廣き帯の如きは夏時には暑氣に勝へ難きの患あり又日本服にては沓を穿に裾纒ひて歩行に便ならず左りとて現在の洋服は袖過狹にして特にコーセットの如きは衛生にも害あらん又婦人の衣裳長きに過ぐるは決して便利の仕立にもあらず故に日本にては衛生と便宜とを骨子として觀美を失はざるの注意を加へて之を用ゐんと必要なりと云ひしに（此事に付ては小生一種の說あり他日委く申述べんと存じ候）チーン孃曰く眞に御身の說の如く今日英國婦人の衣服は之を日本の雛形とするに足らず今日にてコソ學問婦人社會に盛りになりたれども今より卅年前を顧みれば婦人の教育未だ大に社會に注目せられず隨て

舊套の風俗に拘束せられし者今日に遺り居ると多し又一時の流行にて譯もなく不便に陷るともあり現に我母親の物語りに五十年前は婦人の裳(通常の衣服を云ふ禮式の衣服にあらず)今日の如く長からず今日の小女の如くに短からぬも地に着くほどに長からざりしが今の女皇ウヰクトリアの足形よからず之が爲に女皇長き裳を好まれしより一般の流行となりて今日の如くなりたりといへり是の事より考ふるも過長の裳を態々採用して日本婦人に不便を忍ばしむるに及ばず他にも考察し採否の決を爲すべき點多かるべしと存じ候小生親知せる婦人の教を受けたる老婦人名をウヰリアムソンといふ今年八十歳に近くして尙ほ矍鑠たりと聞く此老婦人は四十余年教授の業を取りて其門より出たる婦人今日社會に盡力する者多し小生の聞ける話に今より三四十年以前は小學を卒りたる婦人が入學する私學校(普通教育の高等なる者)には大抵舞踏の科ありて殆ど婦人の教育に缺く可からざる者の如くなりしに此科は道德上に害あるのみならず衣服の美を競ひ婦人をして外觀のみに奔らしむるの傾向ありて毫も內修の助とならざるとの說起りウヰリアムソン婦人斷然其學校に於て舞踏を廢止したるに父母は頻に苦情を唱へて中には其女兒を退學せしむる者ありしもウヰリアムソン婦人は毫も屈せず其主義を實行したるに其後は輿論全く一變して舞踏は別に流行社會の一業となりて物堅き父母は女兒に習はしめざる樣になりたり但運動の爲めに音樂の節によりて躰操を一般學校に用ゐるとなりてより尋常學校は舞踏の跡なし云々是の一話は世論の變遷を見るの參考と相成るべく存じ候。

思ひ出る儘に筆を走らし前後序なく文を成さゞる所も之あるべく御修整の上御用ゐにも相成候はゞ幸に御座候匆々頓首。

ロンドンの客舍に於て

明治廿一年十月廿九日夜　　三郞

善治愛兄

小說

○夢ならぬ夢

フハンタシー

ナタニホル、ホーソーン著　湖山漁史譯

人は世にありて、多くの事に出で逢ふとも、身の上に係りて、行末の方向をも定むべき、いと大切の事柄さへも、知り得るは僅に一部に止るのみ、況して他の數限りなき出來事は、身の傍近く起るとも、心の內には形も影もとゞめずして、只空しく過

ぎ行くなり。若此事を一々知りたらんには、人の心は常に、希望と恐怖と快樂と失望とに滿たされて、一時なりとも、穩かなる時はなかるべし。今此事をダビドスチンの人しらぬ履歴を引いて示すべし。ダビドの身の上の事につきては、今年齡は二十にて、生れし故鄕を立ち出で、商業の手助けにと、ボストン府の小商人にて、八百屋にてありける、伯父の許へ、到らんとする途中の事を記すなり、外に書くべき事もなし。其履歴はニューハンプシヤの州の生にて親も賤しと云ふには非ず、終りの一年はヤルマントン中學校にありて、古典學にて磨き上げたりといひたらばたりぬべし。朝まだきより午の最中まで步み續け、少く疲れを身に覺え、殊に又日中の暑さに堪へ兼ねて集合馬車の來るまでは、しばし休まん場所をもと、道の邊を見廻せば、是へ、是へと云はぬ計りに、四五本楓枝を連ね陰を作りて立ち並べり。又其傍には淸き泉のありけるが、是も同じくダビドのきたるを待ち居りて、只其ためにのみ湧き出でたるが如く、外に心のありとも見えず、處女なるかならざるか、先づ我が物と接吻し、頓て水際に橫はり、枕となして臥したるは、縞のハンケチにて卷束ねたる數枚のシヤツと一足のヅボンにてありたり。其處には日の光線も近づかず、昨の雨にて外に未だ埃もたゝず、下に敷ける綠の草は、今少年の心には身の綿毛の褥にも、猶勝れりと思へるなるべく、心地よげに見えたりける。音も靜に噴く泉、はま吹く風に動く枝、深き眠は忽ち少年を襲ひ來り、其底には幾許の夢を匿したるならんかと、思はるゝ程ながら、我が此處に書き綴るはダビドスキンの身に取りては、夢にも見ざる事なるべし。

ダビドの木陰に眠れる時、他の人は皆目を開き、明かなる日の輝ける、樹間の傍の大道を、步にて行も、馬にて過ぐるも、車にて通るもあり。或は右も左も顧みず、ダビドの事には氣も止めず、あるは只一目見たるのみにて、忙はしき心の內に入れもせず、或は其快く眠れるを笑ひ、あるは心の邪なる念にて充つるものから、入らぬ讒言を吐きていたく罵り、樣々なる人の中にハ、往來の人の絕ゆる時、潜に樹間を窺き込み、少年は夢に浮かされ居るならんと、自ら心み確むる中年の寡婦もあり、晝日中に醉ひ倒れたるは、いたましき酒の害の好き例とダビドを今宵の題となす、禁酒の會の演說者もあり。されどダビドの身に取てハ毀譽褒貶は皆均し、言よりは皆無用と言べきのみ。」眠りて未だ程もなく、二頭の健かなる馬にひかれて、一輛の小奇麗なる馬車、安らかに回り來りけるに、如何したるか心棒の

（二二）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

楔脱け落ちて、車の輪側の方へ傾きて外れかゝり、車は其儘ダビドの寐間の前にて、ヒタト留れり、幸に損害はさまでの事にてもなく、其内にありてボストン迄歸り行く、一人の紳商と其夫人とを一時驚かせしに止まれるのみ。御者と僕は車の修復に忙はしく、其内主人の夫婦は暫く息はんと、楓の下に來りしに、風と心づけるは泡立つ泉と、眠れるダビドスチンなり。穏かに眠れる者は、何となく威光のある者にて、紳商、ルーマチスの許す限り輕く歩み、貴女は絹の上衩に音を立てじと心を用ゐダビドの眠を妨げまじと務めけり。

紳商は「あの能く寢入たる事よ、あの靜かにひく息の、深さよ、藥を用ゐずして得らるゝあの樣なる眠は躰を保ち心を養ひ、我が身代の半よりも價ある也」と低語けば貴女も共に「亦た其上に年の若さよ、年長けては健かにて苦勞なくもあの樣には眠り得まじ、寐ねたる間も覺めたる時も其の安らかなる事は、とても若き者には及び難し」と言ひつゝ兩人は道の傍に、ダマスクの日覆と言ひつべき、緑の葉にて覆へる楓の陰を、己が密かなる部屋となし、何心なく眠り居れる、得知らぬ少年を、見れば見衍心を惹かされ、只見とれて居りたるが、頓て日光少年の顏にさし來りければ、貴女は木の枝をまげて遮りとめ、此優しき業よりして、早自らも母の如く思はれ「從弟の子には望も絶えたれば、あの少年を此處に置き引き合はせんと神の導き給ひしならん、あの顏の何となく去りしヘンリイの面影に似たる事よ起して見ては」といゝたるに、紳商は「なにのために、少年の氣質もしらずに」とためらいながらいひければ貴女はなほ「あの餘念のなき顏はよ、あの罪なき眠はよ」と、答へいひし低き聲に、心もこもりて聞へたり。此問答の進める間も、ダビドの胸は動氣もうたず、呼吸も格別せきあげず、顏には感情の色も現さず、されど幸福は黄金の嚢を落さんと、其上によりかゝれり。紳商は先頃賴み切つたる我が獨子を失ひ、身代を讓るべき者とては、只遠き縁家の者のみなりしが、其者の行状に滿足せざる折も折、此少年に遇ひたるなり。斯る時にも、人は屡ば、魔法使よりもなほ不思議なる事をなし、貧苦の中に眠り居る卑き者を揺り起し榮の位置に引き上ぐる事あり。

貴女は良人を說き勸むるが如き樣子して起して見てはと言へる時、車の修復は整ひたれば、とく召されよと、一聲僕に促され、兩人は急に心付き、なにとてかゝる笑ふべき事に氣をくれしと耻らひたる面持にて、忙はしく立ち出てゝ、紳商は車の上によりかゝり、商賣の損失にて、職業を失へる者を救ひ上る、

好き手術もがなと、心を其方に移しつゝ行き去れば、此方にては、ダビドの眠はいと濃かなり。（未完）

佳傳

○プンヂッタ、ラマバイの傳

ミス、ライダー述

ラマバイの傳は既に女學雜誌第百廿二三の兩號に掲げたるが、今度同夫人に伴なつて印度に渡りウイルラルド孃の名に象どりたるフランセス病院と云へるを設け大に同夫人の事業に助力せんとて當地にも同來せられたる醫學士ライダー孃が、過日慈風會演說の席に於て述られたるものは尙ほ多少の新らしき事を告ぐると思はるゝに付き、重複を省みず、今ま更らに左に掲載す。

ラマバイ夫人の親は印度の人で有たが女子教育を貴まれ男でも女でも教育は是非同樣に受なければならぬと思ひ起したる爲に其人は遂に己の家に居る事が出きず餘儀無くヒマラヤ山の麓に退きました當時ラマバイは未だ幼年であつたが父と母と並に弟と倶に彼のヒマラヤの山の中で生活致しました。

此の山の中に暮して居る時に或る人は學者であつたからラマバイに教育を授け尤ソレが爲めに人間社會を離れて居りまして餘り人とは、餘り所でハない丸で他と交際は致しませなんだがラマバイは當時父より第一にサンスクリットを學び次に他國の言葉を學んだと云ふ事です。

幾許も無くして兩親共に沒し、沒して已むを得ないから山を離れてカルカタと申す所に移ッたソレには千英里以上の所であるが自分は弟と倶に遙る／＼步行して參りました。

カルカタに數月居りました時に弟は死んで仕舞夫人は此の廣き世の中に此の大なる都會中に唯獨り殘されました。

夫人は當時孰の家にも這入とは出きませんナゼなればカルカタの人民は教育を受た婦人は家に入る事は出きぬ罪人であるからと云て家に入事を拒だ故に已を得ず書籍室に行き本を借り又カルカタの大學校に行きて勉强し終りに大學校にて結婚致す迄は當地に獨りで困難しつゝ勉强して居りました。

既に結婚致しまして一人の女子を產んだところが不幸にも夫は虎列拉病の爲に沒死して夫人は孀婦と相成つた。

ソレ故に益す夫人は人の家に入れられない交際をさせられない第一教育を受けた人だから人が嫌ひました第二孀婦だから人が嫌ひました第三印度には家族種族が別れて居る然るに夫人は幼少にして之を捨て山に遁れて仕舞ッたから其の爲めに何人も承け入れる者は御坐いません。

故に夫人は孀婦で擯斥せられ非常に困難を味ふたから彼の印度に居る所の同じ孀婦を憐れむの情を起す事が出き且つ先程御聞になられた通り澤山の孀婦が有る自分は教育を受けて他

の人と異ッて居るから之を憐れみ又教育を授けなければ婦人をして困難の地位より濟ひ揚ぐる事は出きぬ是非とも印度婦人を教育し養成仕度いと云ふ事を決心致しました。ソレ故に印度の某學者に謀ッて女子に教育を仕なければならぬと云ふた時に學者の申さるゝには女の子は教育を受け可き者で無いから右樣の望みは無用であると斷はつた左れども僅かの女達を集めて教育せんと思ひ立ち一軒の家を借り樣とした時に家主は女子教育の爲めなら學校の爲めになら家を貸す事は出きぬと斷はられたソレ故に折角の計畫も玆に破れて仕舞ました。

當時我子は二歳と四月の時に自國に居て學者又は他の人と女子教育の事を謀ッても迚も望みが無いから英國に行き歐羅巴婦人と相談し盡力して貰ひ度ひと決心しソシテ船の切符を買ひて英國に發する所の船に乗りました此の時懐ろに有ッたは僅か五十志許りであつた然れ共英語は少しも分らず水壹杯下ださいと云ふ事も口は利けませんでした。

英國に移りて二年程種々の人と謀ッたが壹人も我志を賛ける者は無い誠に失望して居た時に或る米國の婦人に逢ひました婦人は曰其の志は實に感服であるが英國にては迚も望みを達する事が出きますまい早く米國に御出なさい定めて御助け申す者も有らふからと云ので兒を連れて米國に渡りました。

米國に渡りて多くの人に向ひ印度の憐れなる孀婦や又教育無き女子の況界を述べたる時に米國婦人は何れも之を憐れみ我を賛けて印度婦人の救濟に盡力仕樣と約束致されました。

合衆國に於て種々の都府都會を回りて演説を爲し又重なる男子に此の事を話した所が皆悦んで金財を抛ちラマバイの素志を感ぜられましたラマバイが學校を建るに必要の金は七萬五千圓と他に書物を買ひ若しくは其の他の事の爲めに金が必要であつた。

印度に於て建る學校は幼稚園の法を用ひ幼稚の時より種々有用の教育を施し度ひので有るが其の書物は未だ出きて居らぬと云ふ事です。

此の計畫丈けの金は既に纏りて只今國よ歸へるの途中多くの教育の有樣を視又學校の有樣を視又學校教授の方法宣教師兄弟姉妹の有樣を視んが爲めに是れより支那に赴き然して印度の故郷に歸へる積りです。

來年のクリスマス十二月廿五日迄には學校を落成せしめ開校式を行ふ積りであるから今日此に御出なされた人、取り分け

御若き人は何卒之を記臆せられん事を望みます。

今日諸君に御勸め申したい事はアナタ方が社會に出で御働きにある時はラマパイの如くに教育の事に働き又婦人を憐れみ地位を高めらるゝ事に就て熱心にソレ〴〵盡力せられん事を望みます。

寄書

（本號餘白に乏しく亦此欄を除く）

新報

（此欄内自由に轉載を許す）

宮廷錄事

皇后陛下の御仁慈

皇后陛下には嚮きに大學病院の患者に衣服を下賜はりしが尙ほ又東京慈惠醫院ニ本月より御思召を以て御手許より月々金若干圓を下賜はり一層救濟の道を普及せしむべしと御沙汰あらせられたる由なるが日本赤十字社病院へも嘗冬冬服男女子供分等取交十二枚下賜りたる由に承る吾人は慈仁無究の天恩を肝銘する者なり。

○明治二十二年の女海

今年は國會開設の準備にて極めて多忙なるべく、隨つて女海の波は尤も沈靜なるべし、然し此の波の靜かなる時に船を行るとぞ第一の樂しみなれ。

○第三回女學演說會

去月廿八日府下木挽町厚生館に於て第三回女學演說會を開らきたり、吾社は女學上尤も適當尤も切要と認むるの時機に於て女學演說會を催すの內規ありて、第一回はレビット夫人來遊の折に於てし、第二回は日本に女子の公開演說の先例を創むるが爲めにし、扨て今回は彼の亡國の女傑の志を賛成して開らきたるとなり。然るに東京婦人矯風會に於ても同女史の爲に更らに一回の演說會を催うしたしとの計畫ありしを以て、中途より同會と合併にて此の度の女學演說會を主とると爲れり。廿八日午后一時半弊社長上帝に祈禱を捧げ婦人矯風會頭矢島かぢ子主會し、ラマパイは龜山てい子の通辨を以て（青木まさ子病氣に付代務）印度の女子教育に付き演說し、ライダア孃は石本三十郞氏の通辨を以て婦人禁酒會の事に付演說せらる、聽衆は元と女子に限り但だ女子が男子を同伴するを許したるに付、一千余名の中ち男女殆んど半ばしたり、而して數多の男子は同伴者なきにより、其他は滿員たりしによりて、空しく入場するを得ざりしが、吾人は此類の方々に對し深く氣の毒に感じ居る也。

○ラマパイ義捐金

去月廿六日横濱海岸一致教會堂に於てラマパイの演說ありたる時、有志者は金二十四圓四十五錢三厘を義捐したり、之は横

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

演禁酒會員の手より同女史に渡すべき筈なり。東京に於ては廿三日厚生館に於て婦人矯風會發起の演說會ありし時、同く三十六圓十五錢の義捐あり、廿八日の女學演說會に於ては、同じく二十七圓の義捐あり、其他海岸女學校教師より二圓、駿台英和女學校より九圓廿二錢、外に一圓、都合七十五圓三十七錢の義捐ありたり、之は東京婦人矯風會員の手より同女史に渡すべき筈なり。其の精密なる報告は必らず兩會に於て公けにせらるべし、吾人は公衆に對し此の計算を報告するの責任ある者なれば即ち玆に之を申す。

○ラマバイ既に日本を發す

去月廿八日夜佐々木豐壽女史は、ラマバイ及ライダア孃を待し、外に外國婦人五名及び津田仙中川永輝の兩氏並に善治を招きて晩餐を饗したり、席上ラマバイはウイルラルド孃が万國婦人禁酒會の會頭となりしによつて古來男子にも例しなき万國の大統領なるもの女性中に出來たりと快論し、亦た余に向つて女子撰擧權に賛成するや否やを問ひ余が道理上に於て之に贊成する旨を答へたるを聞て大ひに祝賀したり、席上に英國の旗即ち印度の國旗を垂らしたるを見て余は眞實を申さん眞實は此の國旗を好み申さずと慷慨し、擧止淡泊談論飾りなしと雖ども鬱勃悲愴の氣は自づから滑稽諧謔の言語中に出沒したり」。廿九日は津田君之を伴つて鎌倉の大佛に詣で去る三日支那香港に向つて日本を發したり、橫濱フエリス女學校の教師島田かし子病蓐に在り、ラマバイ特に之を訪ひ其病室に入つて懇話したり、ラマバイが出帆するに先ちかし子は別を惜んで多年携帶したる指環を贈れりと云ふ、余も橫濱に行て之を贈りたるが多忙時間の止を得ざるによりて遂に之に會せざりき、嗚呼ラマバイは既に日本を發したる也。

因に云ふ印度に向て女史に通信するものは左の所に送れ。

Ramabai, St Mary's Home, Poona City, India.

○杉戸の西王母

淺草觀音堂には撫賓頭盧と稱し人之を撫れば幸福を得るとて古來幾万人の撫摩に遭ひ耳目鼻口皆な摩滅して今は殆んど其の痕跡を止めざる木像あり。此れとは事かはれど昔し幕府殿中の杉戸に狩野常信が畫きし西王母の像あり、何日の頃よりかこの西王母の顏を舐るときは長壽を保つと云ひ傳へ、諸人出入の序で之を舐るもの多かりしかば、漸々色彩剝落して顏ともいはず頭とも云はず遂にあと形だになくなれりと或古老はいひき。賓頭盧は撫づるが爲めに設けしあれば左もありぬ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

べし、王母は舐るが爲に書けるにはあらざれども妙なるともあるものにや（繪畫叢談第十五卷）

○東京府高等女學校　府下南小田原町四丁目八番地に新設せらる各府縣に在るものと同樣の學制なり本月生徒を募集し二月頃より開業の計畫にて大束重善氏校長となる。

○篤志看護婦人會　日本赤十字社の同會は去る十九日開諭當日に於て發起人の集會を催ふし協議の末幹事長殿下の指揮に依り本年一月より六月迄の月番幹事に（一月）佐々木貞子、橋本操子、（二月）三條治子、松平慈貞院、（三月）毛利安子、花房千鶴子、（四月）西郷清子、松平照子、（五月）蜂須賀隨子、大山捨松、（六月）松方滿左子、長岡和久子を撰定し幹事補の任期を短縮して二ケ月とし會員循環其責に當ることに定め來一、二兩月の幹事補を石坂道子、大井信子、片山佳妙子、桑田貞子、石黑久嘉子に囑托し幹事副長幷に月番幹事を增員す即ち華頂宮郁子殿下、久邇宮榮子女王殿下を幹事副長に推戴し小笠原純子、前田淑子、小澤桑子、岩倉久子、前田朗子、一條頁子、田中伊與子、祖子三和子、清岡儔子、上野イク子、三條惠知子、伊藤生子に月番幹事を囑托し且つ同會議員規則を議定したりと（赤十字社より報告）。

○淑女館　本所橫網町二丁目埋堀橋畔の淑女館は今度安生堂（產婆教授所）と併せて校舍を新築し既に落成せしを以て去る廿二日其開場式を執行せり。

○文部省直轄學校學生々徒　去年六月末の調査に係る文部省直轄學校學生、生徒の現員及其入學、退學、卒業、死亡數中高等師範學校女子部及東京高等女學校東京音樂學校は左表の如し

	現員	官給貸費	自費	入學	卒業	退學	死亡
高等師範學校女子部	八〇	八〇	｜	二七	｜	七	｜
東京高等女學校	一三七	｜	一三七	二七	｜	二四	｜
東京音樂學校	三五	｜	三五	一	｜	｜	一

○女子奬勵會　朝野の貴紳貴女等の設立せられたる麴町區永田町なる女子奬勵會の構內に新築中なる附屬高等女學舘は日本土木會社の受負ひにて來年二月迄に竣功の見込なる由なるが四月上旬には開校の都合に至るべしと云ふ。

○看護婦學校設置の計畫　赤十字社にては過般山口島根の二縣へ支部を設置する事に決し尙ほ他の府縣へも支部を設置せらるゝの見込にて自然看護婦の必要を生ずべしとて同社內の看護婦人會にては此度府下に一の看護婦學校を設置せんとて專ら計畫せらるゝ由なるが多分當春へ其運びに至るべしと云ふ。

○附屬幼稚園　學習院は此度南隅に附屬幼稚園を設け就學未滿の子弟を入學せしむると云ふ。

○鳥取婦人會附屬の女學校　同會にては此度婦女に須要なる學科を教授し善良なる婦女を養成せんとの目的にて資金を募集中なりしが既に巨額の寄附金を得たるに付き不日校舍を鳥取江崎町に假設し三名の女教師を聘し其他は鳥取縣師範中兩校の教師に囑托して授業を始めらる都合の由にて山田前知事にも大に此擧を賛成して金百圓を寄贈せられたり（正塲二葉、報）。

○伏見婦人慈善會　此度同地の有志婦人二十三名が發起となりて婦人慈善會なるものを設け其第一回を本月十日に伏見倶樂部に於て催ふす由。

○長野尋常師範學校女子部　にては賄方を廢して生徒の自炊となし生徒三名をして十日間宛輪番に勉めしむる由なるが尙ほ聞く處に因れば女生徒は一週間の手當金十錢の內より二錢宛の貯金をなし居る由。

○女子講習會　水戶上市大工町なる同會は藝妓雛吉の發起にて同地の藝妓をして專ら婦人の職務とする裁縫讀書傚術の科業を研究し行く〳〵は卑賤の業を廢めて夫々正業に復するの目的なりと吾人は斯る賤業社會に於て殊勝にも如此きの會を創設するは社會大勢の然らしむる處にして我が國の惡風遠きにあらざる可きを占ふて欣躍措く能はざるなり。

○娼妓公許論　紀州和歌山は舊藩の頃に在ては幣之森吉原等娼妓營業塲ありしが維新改革の當時官廳が斷然禁令を下したるとなるに目下縣會議員中建議說を出して今般は是非に宿志を貫徹せんとて奔走し居る者もある趣き慨しむべきと云ふべし。

○彙報　靑森縣下弘前なる弘前女學校は兼て有志者の醵金にて建築中なりしが舊冬十五日風雪の爲めに倒壞したりと云ふ○山形縣師範學校にては舊冬廿四日第一回女教員講習會卒業證書授與式を執行したり○名古屋淸流女學校は開校以來日尙淺きも生徒の進步著しく頃日第一學期の試業を終りたれは今回更に女生徒を募集する由○名古屋旭廓吾妻町の女工塲は手狹に付此度增築すると云ふ○福島縣下字

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第百四拾三號附錄

女學雜誌

美粹優元靈氣德本凝て女性と爲り
不德を掃き剛汚を濕ため彝味娥美くに

恭賀新年

明治二十二年略暦

神武天皇即位紀元二千五百四十九年

大

- 一日うし 一月卅一日（舊十二月二日 正月）
- 一日ね 三月卅一日（正月三十日）
- 一日うし 五月卅一日（四月二日）
- 一日とら 七月卅日（六月四日）
- 一日とら 八月卅日（七月五日）
- 一日いぬ 十月卅日（九月七日）
- 一日ゐ 十二月卅一日（十一月九日）

小

- 一日さる 二月廿八日 平（正月一日）
- 一日ひつじ 四月卅日（三月二日）
- 一日さる 六月卅日（五月三日）
- 一日うう 九月卅日（八月七日）
- 一日と 十一月卅日（十月九日）

四方拜	一月一日
元始祭	一月三日
孝明天皇祭	一月三十日
紀元節	二月十一日
春季皇靈祭	三月二十日
神武天皇祭	四月三日
秋季皇靈祭	九月廿三日
神嘗祭	十月十七日
天長節	十一月三日
新嘗祭	十一月廿三日

甲子　二月十七日　四月十八日　六月十七日　八月十六日　十月十五日　十二月十四日

社日　三月廿三日　九月十九日

ひがん　三月十七日　九月二十日

庚申　二月十三日　四月十四日　六月十三日　八月十二日　十月十一日　十二月十日

土用　一月十七日　四月十七日　七月十九日　十月二十日

小かん	一月五日
大かん	一月二十日
せつぶん	二月三日
初午	二月十一日
八十八や	五月一日
入梅	六月十一日
げし	六月廿一日
はんげしやう	七月二日
二百十日	八月卅一日
とうじ	十二月廿一日

日曜表

一月	六日　十三日　廿日　廿七日
二月	三日　十日　十七日　廿四日
三月	三日　十日　十七日　廿四日　卅一日
四月	七日　十四日　廿一日　廿八日
五月	五日　十二日　十九日　廿六日
六月	二日　九日　十六日　廿三日　卅日
七月	七日　十四日　廿一日　廿八日
八月	四日　十一日　十八日　廿五日
九月	一日　八日　十五日　廿二日　廿九日
十月	六日　十三日　廿日　廿七日
十一月	三日　十日　十七日　廿四日
十二月	一日　八日　十五日　廿二日　廿九日

詩歌の宣者糸竹の樂人福音の天使
則ち吟じ則ち奏し則ち謝し神人を和に

東京京橋區日吉町八番地
女學雜誌社

明治廿二年一月五日發行

編輯兼發行者　巖本善治
印刷者　森田豐

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

多郡新田村の有志婦人は婦人矯風協會なるものを設立せられたり。

○東京府下女學校

官立私立男子女子東京諸學校獨案內と云へる一表出版せられたり、中に就き女學校に關するものを摘記せば左の如し、

高等師範學校女子部　本郷區湯島○倫理教育國語漢文英語數學簿記地理歷史博物物理化家事習字圖畫音樂躰操（四ヶ年）

高等女學校　神田一橋通町○倫理國語漢文英數地理歷史博物生理理化教育家事習字圖畫手藝唱歌樂器躰操○授業料二圓

明治女學校　麴町區飯田町三丁目卅二番地○女性必要の教育○東脩二圓受業料一圓三十錢本科一圓五十錢

跡見女學校　小石川區柳町○和漢學英學數學繪畫裁縫編物○東脩一圓五十錢月謝和漢數習字、英語一圓習書、裁縫編物五十錢

女子英佛學校　神田區猿樂町六番地○英學部佛學部○東脩月謝各一圓乙科（編物裁縫刺繡造花玩具音樂圖畫）

成立學舍女子部、　神田區駿河臺袋町○女子須要學術技藝○東脩三圓月謝本科高等科幼年科一圓五十錢高等師範科二圓

共立女子職業學校　神田區一橋通町○裁縫編物刺繡飾帽造花圖畫讀書習字算術家事理科○東脩甲一圓乙半圓月謝甲一圓三十錢乙八十錢

靜女塾　神田駿河臺鈴木町○英學皇漢學數學習字裁縫○東脩一圓授業料一圓五十錢食料三圓油炭費三十錢

海岸女學校　築地明石町十三番地○和漢英學聖書誦歌躰操○東脩一圓月謝一圓音樂月謝五十錢

東京女學　芝區南佐久間町二丁目一番地○女子に關適する學術技藝○入學金二圓全科授業料一圓四十錢

東洋英和女學校　麻布東鳥居坂町十四番地○英學豫科本科普通學豫科○東脩一圓授業料一圓賄料浴湯其外雜費共一ヶ月三圓

松香女學館　神田區中猿樂町十七番地○修身讀書作文習字算術英學歌詩琴箏點茶裁縫○東脩五十錢授業料一圓七十錢

靜修女學校　神田區小川町十四番地○英學○通常生東脩五十錢月謝五十錢○別席東脩一圓月謝一圓

通義女校　芝區公園地第五十八號○和漢學習字裁縫禮法○東脩三十錢乃至一圓月謝三十錢乃至五十錢○別科英學部

櫻井女學校　麴町區中六番町五十二番地○普通學及女子必須の技藝兒童教育法等○東脩二圓授業一學期（五ヶ月）十圓

平川女學校　麴町區平川町四丁目○英語學和漢學日本裁縫編物○入學金一圓授業料本科一圓豫科五十錢教場費十五錢

柴山女學校　神田區猿樂町廿五番地○普通科編物裁縫漢學數學各二十錢英學三十錢○高等科英學數學漢學各五十錢

興風女學校　神田區駿河臺袋町十六番地○英文漢文和習字數學裁縫○東脩一圓授業料一圓別科（點茶挿花和歌）月謝五十錢

香蘭女學校　麻布區永坂町一番地○修身英學和漢學理文數學家理雜科○東脩二圓授業料一圓五十錢

東京裁縫女學校　本郷區湯島切通坂町廿九番地○裁縫編物帽子飾英語諸禮西洋料理法○東脩一圓五十錢月謝一圓二十錢

麴町產婆學校　麴町區麴町八丁目五番地○產婆養成（十八ヶ月）東脩五十錢月謝五十錢

外報

（此の欄內自由に轉載を許す）

○ゼッシー、エッケルマン孃　は曩きに萬國婦人禁酒會の通信書記メリークリメント、レビット夫人が巡回されし各地を視察として本月上旬桑港を發し布哇を經て本邦に渡來せらるゝ由。

○家政學校　米國のエムマ、エウイング夫人と云ふは數多の家政學々校を設けたる人なるが去る十月よりはボストンの青年基督婦人協會の內に於ても亦た同樣の學校を設立したり。

○ウエルスレー女大學　米國の同女子大學へ去月入校したる生徒は九十五名にして其他は寄宿舍なきに付入校し得ざりしが之にて生徒の現數七百人余となれり

本號は活版部年初休業に付て例日より刷上り延引し隨て配達遲わり候に付御容赦可被下候

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小供談

○強くなりたがる猫の話　　美妙齋主人

ある家に畜はれて居る猫がある日鏡にむかつてつら〳〵自分の身躰を見ると人間の身躰の二十分の一にも足らない少さな身躰ゆへ、大層心配して來ました。

「あゝ何故、わたしはこんなに小さく生れたンだらう、なぜ阿父さんや阿母さんが最と大きく私を產まなかッただらう。何だらう、まア、わたしの身躰は只ゞ是ンばかり……家の赤さんほどの大きさも無い。これだから弱い筈、これだから犬も私を馬鹿にして、私が一寸でも戶外に居ると牙を剝出して追掛けるンだよ。あゝ、あゝ、もし私の身躰が親類の虎ぐらゐ有ッたら、その半分ぐらゐでも有ッたら、なに犬だッて私を追掛けるものか。きッと恐れて降參する。家の旦那さまだッて、さうなりやア、私を打つこともあるまい、私をこはがッて「玉や」「玉や」とやさしくして、そして鮑貝も廢して黑塗の御椀にし、食物も御肴のアラや骨で無くッて、牛肉か、牛乳か、玉子か、また御肴なら鯛かマグロの旨い身處を附けて私を大事にして畜ッて置くだらう。あゝ、さうだ、どうか強くなりたいものだ。どうしたら強くなれるだらう。あゝ、よし〳〵、神さまに祈つて見やう。神さまに祈……あゝそれが一番よからう。あゝ、早く強くなりたいな」。

かうして猫はそれから一心になつて神さまに願ふと、不思儀や、そのうち、次第に身躰は大きくなつて終に望みどほり虎ぐらゐの大きさになりました。けれど大きくなつたといふばかり、なるほど犬ぐらゐは吃驚して逃げても、食物はさつぱり佳くもなりません。毎日毎日大きくなつて果しが無い玉の姿を見ては家の畜主は氣味がわるくなつて終尾には「玉や」と呼ぶものも無く、シッ〳〵と逐つたり何かするやうに爲つて來て、それゆゑ旨い物などは勿論たべさせません。猫も大層目的がはづれました。しかし、まだ後悔する氣も出ません。終には忌々しく、くやしくなつて來ました。旨い物を呉れろといふ心で鳴きましたが、自分は前の小さい時の氣で聲を出しても人には恐ろしい聲に聞えます。それゆゑ、人も油斷しません。更に猫は鳴きました。が、畜主は恐れる計です。つひに畜主はこらへかねて、こはさのあまり、鉄砲を取上げて一發の中に猫を打殺して仕舞ひました。

利口な子はこの話を讀んで「あゝ私は猫のやうに無茶苦茶なことを望みません」と言ひますよ。

(三〇)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文學一班（第十五回）　松山高吉

語格（其十一）　係辭と結辭とを證する歌の續き

係辭第二段のすぢは皆ぞのや何の結辭なれば此なるも前のはも徒の條にいへるが如くこの後なる歌ごとに悉はかゝげず唯かゝりと結辭との關係の句のみを擧んその用例は推てさとるべし

ぬの結辭

ぞ（係辭）ぬ（結辭）　心ぞ風もふきあへぬ　○の（係辭）ぬ（結辭）人の音づれもせぬ　○や（係辭）ぬ（結辭）　春やむかしの春ならぬ　○何　などわが宿ゑ云ゝせぬ　あふ夜とはたれかはしらぬ

るの結辭

ぞ（係辭）る（結辭）　せんかたなみぞとこ中にをる　○の（係辭）る（結辭）　うぐひすの人く〳〵といとひしもをる　○や（係辭）る（結辭）　元輔か後といはるゝ君しもや云く々をる　○何　いつかは雪のきゆる時ある

けるの結辭

ぞ（係辭）ける（結辭）　花と見るまで雪ぞふりける　○の（係辭）ける（結辭）　あやしく駒のすさめさりける　○や（係辭）ける（結辭）　心おくまで世をや歴にける　○何　いづれか色のかはらざりける

めるの結辭

ぞ（係辭）める（結辭）　花すゝき君かかたにぞなびくめる　○の（係辭）める（結辭）　蘆間のたづのたぢさはぐめる　○や（係辭）何（係辭）を結べるめるは未だ見わたらず

ぬるの結辭

ぞ（係辭）ぬる（結辭）　風の音にぞおどろかれぬる　○の（係辭）ぬる（結辭）　あふくま川の遠ざかりぬる　○や（係辭）ぬる（結辭）　尾上の月にさ夜やふけぬる　○何　うちはへていくかかへぬる

つるの結辭

ぞ（係辭）つる（結辭）　瀧つ心をせぎぞかねつる　○の（係辭）つる（結辭）　くだかけのまだ木に鳴てせなをやりつる　○や（係辭）つる（結辭）　み山いでゝ夜半にやきつる　○何（係辭）つる（結辭）　たれなほざりの袖かふれつる

むの結辭

ぞ（係辭）む（結辭）　うごきなき岩のはても君ぞ見む　○の（係辭）を結べるむは見わたらず　○や（係辭）む（結辭）　年の緒ながく戀やわたらむ　○何（係辭）む（結辭）　うれしさを何にたとへむ

ましの結辭

ぞ（係辭）まし（結辭）　櫻は去歳の春ぞさかまし　○や（係辭）まし（結辭）　白雪のみちゆきふりゑ言やってまし　○何（係辭）まし（結辭）　立田川みづの秋をばたれか知まし　なにか別の悲しからまし　いかばかり人の言葉うれしからまし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なるの結辭

ぞ（係辭）ある（結辭）　梢はるかに今ぞなくなる」秋風に初厂かねぞきこゆなる」○の（係辭）ある（結辭）　花さきしより聲の色なる」○や（係辭）なる（結辭）　わすれぬ人や人にことなる」○何　なぞ世の中の玉たすきある」世の中はなにか常ある」

なんの結辭

ぞ（係辭）なん（結辭）　都の松に鶯のあきてぞ來なん」○の（係辭）あん（結辭）　見し夢のあがき思ひに云ふなん」○や（係辭）なん（結辭）　わたらば錦なかやたえあん」○何　いかなる方におもひたえあん」いづかたにゆきかくれなん」

けんの結辭

ぞ（係辭）けん（結辭）　千代のためとぞ云ふ祝ひそめけん」○の（係辭）けん（結辭）　ちる花の雨に云ふ雪とふりけん」○や（係辭）けん（結辭）　我が黒髪はなてずやありけん」○何（係辭）けん（結辭）　なにしか人を思ひそめけん」

らんの結辭

ぞ（係辭）らん（結辭）　いはふ心は神ぞしるらん」○の（係辭）らん（結辭）　別路の雪のまに〳〵深くなるらん」○や（係辭）らん（結辭）　春たつけふの風やとくらん」○何　心ひとつをたれによすらん」春霞あにかくすらん」

てんの結辭

ぞ（係辭）の（係辭）を結べるてんは未だ例證を見わたらず
○や（係辭）てん（結辭）　見てのみや立くらしてん」櫻花云ふ○何　今いくかありて若菜つみてん」山櫻こゝろの色をたれ見てん」

係辭第三段　こそ　けれの結辭

係辭の第三段　こそおよび其結辭

こそ（係辭）けれ（結辭）　古今集「をみなへし吹過てくる秋風は目には見えねど香こそしるけれ」同「心こそうたてにくけれ」そめざらばうつろふことも惜からましや

しかの結辭

こそ（係辭）しか（結辭）　拾遺集「戀すてふ我が名はまだき立にけり人しれずこそ思ひそめしか」古今集「きのふこそさなへとりしか」いつの間に稻葉そよぎて秋風のふく

ねの結辭

こそ（係辭）ね（結辭）　古今集「はるの夜の暗はあやなし梅花いろこそ見えね」香やはかくるゝ

係辭第三段のすぢは皆こその結辭なれば此より以下なる結辭も前の第一第二の段とおなじく證歌のうちにて要とする係結の句のみを掲げてその餘の詞は除きぬ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

睡眠のこと

○育兒心得（第十六回）

船越鼎太郎講

第二章　孩兒の事

睡眠

問。睡眠の生理的に欠く可らざるは如何なる理由に御座候や。

答。吾人の身體は斷へず消耗れども亦絶へず補救はるゝものに候。今隻手を同じ方向に數回運動すれば遂には疲勞を感ずべし其疲勞を感ずるは隻手を運動すると劇きが爲めに其運動を司る筋肉の消耗すると多くして之れに循環する血液の直に補救し能はざるに由る。然れど其運動を止めて休息する時は暫時にして其疲勞を忘るべし。之れ其筋肉に循環する所の血液は、消耗して生じたる老癈産物を運び去り新鮮なる物質を以て之れを補救するに由るものに候。右の理に由て吾人精神を勞すれば倦息を生じ身體を勞すれば疲勞を來たすものに候。その疲勞を治するに二樣の方法之れあり一は其疲勞したる機關を休息して未だ疲勞せざる機關を用ふるにあり。假令は學生の讀書に由て精神に倦息を覺えたる時運動場に出て運動を試み其未だ疲勞せざる身體を仕用するが如き之れあり。一は全身を休息して精神即ち腦髓の官能をも身體各部の作用をも全く休息せしむるにあり。この全身を休息せしむると云ふは則ち睡眠のとに候。睡眠の間は腦髓及五官器も各々其官能を休み筋肉も全くその作用を止め呼吸及脈搏も其數を減じ其他身體各部の機關殆ど其作用を廢し恰も心身共に世界の外に之れあるが如く最も完全の休息法に御座候。小兒は其心身孱弱して新陳代謝機能盛なるものに候へば睡眠の時間をも多く要すべき筈に御座候。睡眠の疲勞を醫するに最も宜き證據は夕陽の西山に傾き旅客の客舍に泊らんとするころ疲勞甚しく殆ど一歩を進む可らざるに一睡の后翌朝に至れば徒歩旅行をなすに妨げあきが如き。又學生の久時數學を考へ大に倦慢を覺え思念紛亂して何事をもなす能はざるに至るも一睡の後精神恢復して黽勵黽學に堪ふるが如き皆此理に由るものに候。

晝寢のこと

問。孩兒は日中にも睡らしむる方宜きものに候

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

就寝時間のこと

や。

答。孩兒は必ず日中に二三時間は睡らしむる樣に致さるべし。假令孩兒の未だ眠りに附かざるものと雖臥褥に臥さしむべし、始めは之れを嫌ふて叫くとあるも堪忍して之れを勸めらるれは容易よ眠る樣に相成るものに候。日中に眠るの習慣は三歳若くは其以上にも續けられ度ものに候。孩兒若し日中に眠るとなければ日闌頃に眠り大人の褥に附く頃には睡眠に倦みて寤むべし。此時には孩兒を愛し之れか相手となるべき人既に睡眠に就くを以て誠に其樂快を失ひ夜間久しく不眠に苦しみ大に害あるものに候。故に孩兒は日中二三間時も眠らしめその寤覺たる後は夜に至るまて眠らしめざる樣に致たさるへく候。

問。夕は何時頃に孩兒を褥に就かしむべく候や。

答。冬は六時夏は七時に孩兒を褥に就かしめらるべし。此の褥に就かしむる時間も堅く守らるゝは勸要のとにして常に臥褥に就かしむる時間を違えざれは孩兒其時刻に至れば自ら睡眠を催すを以て之れを養育するものにも困難少きのみならず孩兒の健康にも宜きものに候。然るに其臥褥に就く時間を定めず、或時は早く或時は遲くすれば孩兒の健康に害あるのみあらず之れを養育するものも其辛苦少なからざるものに候。

孩兒の既に歩行するものは褥に就く半時間も前より或は戯れ或は舞ひ或は奔走せしむる等して運動せしむべし。之れ孩兒に安眠を得せしめ冬期と雖足を暖あらしめ凍瘡等を防ぐものに候。

孩兒臥褥のこと

問。孩兒を臥褥に就けるとに付き何にか御差圖之れあり候や。

答。孩兒を獨りにて臥さしむるならば褥の中央に就かしめ冬日は其臂及手も盡く夜具の内に包み夏日は夜具の外に其手を出たさしむべし。孩兒を眠りに附けたる時には其顏面の夜具にて被はるゝとあき樣に注意せらるべし吾々の咄出したる空氣は不潔にして有毒に御座候へは夜具の爲めに咄出したる空氣滯り再三之れを呼吸する等のとありては大害あると勿論のとに候。夏日は蚊幮若くは

○女子生理（第十六回）　船越鼎太郎講

第三章　分娩の事

不時出産看護人の心得

產醫若くハ產婆の來らざる前に出產するは經產の婦人に數々之れあることにして斯くの如き場合にハ常に分娩輕く誠に望ましく幸なることなり。然るに其看護人たる者之れを取扱ふべき方法を知らざる時ハ幸を轉じて不幸に陷ることあり。故に今簡單に其取扱ひ方を講述するハ無用のことに非ざるへし。

看護人の注意

第一看護人ハ沈深自若、騷くことなく、苛つことなく、密語ことなく、饒舌することなく、產婦をして聊も危險ありとの感覺を起さしめざる樣ますへし。實に此時に最も危險を來たすの元因ハ看護人の徒らに產婦及初生兒のことに付き心勞して驚怖くにあり。

赤子の取扱の事

產醫若くハ產婆の來らざる前赤子の生れたる時ハ赤子の頸に臍帶の卷き附き居らざるやに注目すべし、若しも卷附き居る時ハ注意して之れを解くべし。又赤子の口ハ卵膜の截片にて蓋れ或ハ赤子の顏面ハ衣服の中に埋められ呼吸を妨ぐることなきかを窺ひ、呼吸を妨ぐる者ハ盡く除くへし又口の邊りに附着たる粘液ハ軟き布片にて拭ひ去り粘液の鼻孔及口内に入りて呼吸を妨げざる樣に致たさるべし。

赤子生る時の事

赤子の出產したる後、臍帶に指を觸るれバ初めハ脈搏活潑に感ずるも漸次弱くなるものとす。此時にハ赤子叫鳴くものなり。赤子の叫くハ始めて世界の空氣を呼吸したる時なり。若し赤子の自然に叫鳴かざる時ハ平手にて臀部を打つへし。

赤子の死にし如く見ゆる時の事

若し赤子の死して居る樣に見ゆる時ハ臀部及背部を平手にて打ち或ハ顏面に冷水を吹き懸けらるべし。殊に平手にて臀部を打つことハ最も簡便にして最も即座に行なはれべき者にして此方にて初生兒を蘇生せしむること尠からず。縱令一びハ死したる外觀あるものと雖叫鳴を始むれバ安全なること一般ありとす。

右に述べたる方法にて蘇生し能ハざる時ハ人工呼吸法を行ふべし。其法ハ術者左の手にて赤兒の鼻を摘み空氣の通過せざる樣に致し而して赤子の口

に術者の口を當て其口中に強く息を吹き入れ肺臟を膨らす樣にすべし。斯く吹き入れたるの後右の手にて赤子の胸腹を壓して自然の呼吸の如くすべし。此術を一分時間に大凡十五回位數分時間行ふべし。若し此術にして效ある時は痙攣性の哽咽をなすものなり。初生兒の未だ呼吸を始めざるも臍帶に脈搏ある間は之れに由て生命を保續するものなり故に臍帶に脈搏ある時は決して之れを結紮す可らず若し誤て之れを結紮する時は初生兒は呼吸に由て未だ獨立に生活するを得ず又其臍帶は既に結紮せられて母體との血液環行を絕ち忽ち生命保續の路止まる者なり。

臍帶の事

臍帶の脈搏既に止むも産醫若くは産婆の來らざる時は之れを結紮して截斷ざる可らず。本邦にては之れを結紮するに通例麻を用ふ麻は一結致し重ねて再び結ばんとする間に結むとなきの便利あり其結紮の法は初生兒の體を去ると凡そ二寸の所に糸を懸け固く二た結致し其結紮したる所より尙三寸を去り前と同樣に第二の結紮を行ひ其中央を鋏にて截るを法とす。臍帶を截るには其截るべき部を蹄となし手掌に置き鋏み截るを善しとす。斯くするは動搖する小兒に創附けざる爲めなり。東京には臍帶刀と稱して一度臍帶を截りて再ひ用ひざる所の刀あり之れも不潔なる鋏或は刀を用ふ可らずと云ふ善き戒と思はるべし。臍帶を截りたる後は初生兒に油を附け微温湯にて半身づゝ洗ふべし、殊に腋下、頸下、股間、等に注意すべし叮嚀に洗ふは宜しけれども七分時間より長く手間取ざる樣にすべし。初生兒を洗ひたる後には充分に臍部を保護して衣服を着せしむべし。

後産の事

後産は通例十五分より三十分時を經れば自ら分娩るゝものなり。縱令三十分時程を經て娩出されざるも決して妄に臍帶を引く可らず之れが爲めに大危險を招くと少からず。若し此時に至るも産醫の來らざる時は看護人のなすべき處置は右手を産婦の下腹に當て確と之れを壓すへし、之れに由て子宮收縮を起し後産を娩出するものゝ此法を行ふて後産を娩出たさしむると能はざる時は産醫の力らに

通信女學合併附錄の事

○本社にて是迄通信女學講義錄と云へるを毎月一冊づゝ發行し既に第十五卷迄で出版したるが何分月一回にては餘り隔たり過るようなる上に一冊の枚數僅かに七十頁以内にては迚も十分に講述すること致しがたきに付此度之を女學雜誌に合して毎號に其附錄と爲し出版することに改め候

○右樣合併いたしたるの利益數多之れ有り候、先づ其第一としては此迄での通信女學の讀者は以前の七十頁に掲載したる丈けの講義を引つゞき讀み得る上に女學雜誌に記載する社說論說叢話其外を同時に讀み得る事、其の第二の利益としては此迄での女學雜誌の讀者は從來に均しき有益の雜誌を讀み得る上に毎號八頁即はち一ヶ月に於て元の通信女學に記載したる丈けの數多の信切なる講義錄を讀み得る事、なり。

○然るに右樣合併したる爲に幾干の定價を增したるかと申せば僅かに一號に付一錢にて有之從來女學雜誌は二十四頁にて五錢の處ろ之に八頁を加へて只だ一錢の增價を要するは弊社の大勉强する所ろと推察なし下され候はゞ有難く候。

○之により此迄で通信女學講義錄は毎月一冊にて定價二十錢の定めなりしに付今后女學雜誌の讀者は僅かに月に四錢の增價にて元と廿錢したる通信女學同樣の講義を聞くことを得、又通信女學從來の讀者は是迄の二十錢に僅かに八錢(府下の方は僅に四錢)を加へて廿四錢したる女學雜誌を毎號購讀することを得べし双方に少からぬ御便利かと恐察致候。

○夫故へ此の改正によりて讀者諸君の御便利の幾干なるかを明白に一覽にいたし候はゞ左の如くに候

從來女學雜誌と通信女學とを合せて購讀せられたる方は自今毎月十六錢の御倹約となり、其上三十日目に受取られたる通信女學を七日目毎に受取らるゝの便利となりたり。

從來女學雜誌丈けを購讀せられたる方は自今女子生理、育兒法、和文學一斑、理學一斑、家内理學、經濟學、歷史、等の信切なる講義を聞くことを得べし、而して從前より僅かに四錢の增價にて元と二十錢の通信女學を買ひ得る譯となりたり。

從來通信女學丈けを購讀せられたる方は自今其時々に注意すべき有益ある事件の社說論說、新版書の批評、數多の面白き叢話、佳傳、小說、尤も新しき内國外國の女に關する新報等を讀み得べし、而して從前より僅かに四錢乃至八錢の增價にて元と二十四錢の女學雜誌を買ひ得る譯となりたり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌定價改正の事

右に申す如く改正いたし候に付ては女學雜誌の定價を左の如く改め申候事

一冊定價	六錢	郵稅一錢	府内無稅
十冊前金	五十八錢	郵稅共	六十八錢
半年前金	壹圓四十三錢	郵稅共	壹圓六十九錢
一年前金	貳圓六十錢	郵稅共	參圓十二錢

通信女學掲載方法の事

右に申す如く通信女學を合併いたしたるに付ては其の掲載法は是迄通信女學に掲げたるものゝ後より引續きて此方を載することに致し候、而して小供談百人首一口話の二つは是迄で女學雜誌に掲げ來りたるに付自今通信女學には講述いたさず候。又た附録は后に至り一々取まとめて合卷といたし得るよう毎葉の終り迄で記載、殊更ら章節の句切には頓着いたさず候

通信女學十五卷迄賣拂代の事

右に申す如く是迄で通信女學に掲げたるものゝ後より引續きて此方に掲げ候ては從來女學雜誌のみを購讀せられたる方は中途より講義を聞かるゝ譯にて定めし御不滿足と存じ候因て右樣の方々に限り第十五卷迄の通信女學を左の底價にて差上申候

通信女學第一卷より第十五卷迄定價二圓六十錢の處
女學雜誌の讀者に限り
一卷十錢郵稅一錢即ち
十五卷を一圓五十錢郵稅三十錢にて差上候

但し之は女學雜誌の讀者に限るとゆへ御注文の節女學雜誌購讀者たるの有無を記載せられたく、尚ほ殘本は固より多く之れなく候に付御用の方は可成早く申込れ候方御利益かと存じ候

女子生徒募集

◎普通學を卒り自在に意思を綴り得る者
◎熱心篤志先づは中途廢絶の憂へ無き者
◎通信敎授所謂自宅獨習生は御斷り申す
◎成効の見込無き者は一月内に謝絶致す
◎束脩五拾錢月謝五十錢すべて前納とす
◎資格を全備せざる間は卒業證を與へず

下谷車阪町
七拾一番地
講師　速記法女子研究會
但　與次郎
外男子一名女子一名

女子敬愛學校生徒募集

本校ハ主トシテ和洋服裁縫編物及ヒ英語學ヲ敎授ス
但シ時々脩身學及ビ婦女日常ノ心得ニ就キ口授スルコアル
ベシ亦タ漢學數學ノ敎授ヲモ生徒ノ望ニ應ス

芝區兼房町
十三番地
女子敬愛學校

謹賀新正

新年ハ一層事業ニ勉勵シ各社出版基督敎書籍ハ勿論凡社會ニ有益トナル
べキ新聞雜誌ヲモ大賣捌仕候間舊に
倍し御愛顧之程ヲ奉願候
神戸元町四丁目貳番路切筋
女學雜誌賣捌所　福音舍

閼輪正路君纂著○木村熊二田口卯吉兩君序
女子必携　今世ひめ鑑　全一冊　賣價四十五錢　郵稅八錢

右は先きに本社に於て出版せしものにて凡そ婦女子の心得べき承知すべき質問すべき箇條は大抵記載し有之候蓋し古の「ひめ鑑」の重寶なりしとを御存知の方々は開化したる當世のひめ鑑も亦同樣に助けあると想像し給ふべし

京橋區日吉町八番地
女學雜誌社

英國法學士文學士
日本文學博士 末松謙澄先生譯

谷間の姫百合

初卷（再版）
貳卷（新版）

初卷定價金四拾錢郵稅金拾四錢 ● 第貳卷定價金四拾錢郵稅金拾四錢

諸君御待兼の谷間の姫百合第二卷は愈々製本出來上りて**新年一月二日**より賣出し仕候 **初卷**は疾に賣切れ候處此度再版致し候已に當時の諸新聞及各雜誌に十分の批評もこれあり候得共今更ら喋々吹聽不仕候 本書が高尚優美の思想と流麗微妙の筆とを以て近時小說社會に一新生面を開きしは疑ひもなき事實にて**恐れおほくも九重の畏きあたりの思し召しにとまり早く二の卷を見まほしとの御仰せ** 出版者の面目此上にや候ふべき **二卷**は諸君がおなじみの有洲成人が嵩さし油斷よりして一條の風波を起し遂に虎子と離別する事雙生の娘綠、琉璃が生育より綠が他の遊治郎の爲めに身を過つ事有洲伯の病死により十餘年間他鄉に飄泊せし成人が有洲に歸り二人の娘に對面する事等凡そ十回之を初卷に比するに更らに一段の佳境に入りしを覺ふ已に初卷を讀みたらんには必ず二卷を繙かんことを思ひ二卷を繙かば又必ず初卷を讀まんことを思ひ玉ふべし

發兌 東京日本橋區本町三丁目拾七番地 **金港堂**

文

日本文學會第六回會員募集

本會去ル十八年應募會員中當學期ヲ以テ全科卒業證ヲ氷國ショトクワ文學會本部ヨリ得タル、見込ノ會員多クアリ故ニ今般更ニ普通專門兩科新會員ヲ募集ス（廿一年度）● 有志諸君ハ來ル廿日限リ申込ルベシ ● 郵劵二錢ヲ投セハ規則書ヲ進呈スベシ

大阪京町拾四丁目 **日本文學會本部**

遞信省認可

生徒募集廣告

今般本校ニ於テ生徒募集候條年齢十二年以上高等小學科以上ノ學力アリテ入學志願ノ女子ハ願書ニ履歴書ヲ添ヘ本月二十日迄ニ本校ニ差出スヘシ但詳細ノ儀ハ本校若クハ府廳學務課ニ就キ承合スヘシ

廿二年一月

京橋區小田原町四丁目八番地

東京府高等女學校

新年の御祝詞申納め候

芝南佐久間町二丁目一番地

私立 **東京女學**

●始業并女生徒募集

來七日ヨリ始業候ニ付寄宿生ハ其前歸學シ通學生ハ同日ヨリ登學スベシ●本年ヨリ改正規則實行候ニ付寄宿通學生及幼年生高等科生共二百名ノ入學ヲ許ス至急申込アレ

芝南佐久間町二丁目一番地

私立 **東京女學**

校長 伯爵 庭田胤子

女生徒募集廣告

一月八日ヨリ始業ス因テ本科豫科ヘ入學ヲ許ス學科ハ內外國教師十名ニテ和漢學英學其他普通學ヲ教授ス規則書望ノ方ハ郵劵二錢送附アレバ是ヲ呈ス

芝區白金猿町五十三番地

私立 **頌榮女學校**

發兌

一月。五日 十二日 十九日 廿六日

二月。二日 九日 十六日 廿三日

三月。二日 九日 十六日 廿三日 三十日

四月。六日 十三日 二十日 廿七日

定價

一冊。六錢 郵稅。一錢（但府內無郵稅）

十冊。五十八錢郵稅。十錢（同前）

半年分 一圓四十三錢 府外は 一圓六十九錢

一年分 二圓六十錢 府外は 三圓十二錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲載する分には右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部附の割合を定む

一行 一回（廿七字詰）前金拾錢

同 三回以上 一割引

同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引（但し不道德なる事物の廣告は一切す）有益なる書物の廣告は社誌の上無代價にて引受く女學に關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新内町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目所明堂○同本郷四丁目文春堂○櫻谷日吉町角田屋吉○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出店○京都四條通小橋西へ入落集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版川○出雲國松江新町協雅堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町原與助○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原綿町石森堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目紫開堂○熊本文明堂

明治二十二年一月四日印刷
明治二十二年一月五日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

生徒募集廣告

今般本校ニ於テ生徒募集候條年齢十三年以上高等小學科以上ノ學力アリテ入學志願ノ女子ハ願書ニ履歴書ヲ添ヘ本月二十日迄ニ本校ニ差出スヘシ但詳細ノ儀ハ本校若クハ府廳學務課ニ就キ承合スヘシ

廿二年一月

京橋區小田原町四丁目八番地

東京府高等女學校

新年の御祝詞申納め候

芝南佐久間町二丁目一番地

私立東京女學

始業幷女生徒募集

來七日ヨリ始業候ニ付寄宿生ハ其前歸學シ通學生ハ同日ヨリ登學スヘシ●本年ヨリ改正規則實行候ニ付寄宿通學生及幼年生高等科生共二百名ノ入學ヲ許ス至急申込アレ

芝南佐久間町二丁目一番地

私立東京女學

校長 伯爵 庭田胤子

女生徒募集廣告

一月八日ヨリ始業ス因テ本科豫科ヘ入學ヲ許ス學科ハ内外國教師十名ニテ和漢學英學其他普通學ヲ教授ス規則書望ノ方ハ郵券二錢送附アレバ是ヲ呈ス

芝區白金猿町五十三番地

私立頌榮女學校

發兌

一月。	五日	十二日	十九日	廿六日
二月。	二日	九日	十六日	廿三日
三月。	二日	九日	十六日	廿三日 三十日
四月。	六日	十三日	二十日	廿七日

定價

一册。六錢　郵税。一錢（但府内無郵税）

十册。五十八錢郵税。十錢（同前）

半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓六十九錢

一年分　二圓六十錢　府外は　三圓十二錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲するには雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部附の割合と定む

一行　一回（廿七字詰）前金拾錢

同　三回以上　一割引

同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる書物の廣告は社説の上無代價にて引受く女學に關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町暖々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新肴町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬守堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目解明堂○同本鄉四丁目文為堂○横濱住吉町角田原貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出庄○京都四條通小橋西へ入濱集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町協進堂○廣島縣大手町一丁目早迹組○長崎酒屋町堺與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原綠町石森堂○上州高崎田町燒平堂○土佐國高知本町三丁目學園堂○熊本文明堂

明治二十二年一月四日印刷

明治二十二年一月五日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　嚴本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price *5 sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō, Japan.